

日本建築学会北海道支部
2011年度 通常総会

日時 2011年5月13日(金)
会場 北海道第二水産ビル

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2011 年度総会議案

2010 年度事業報告

2010 年度は学会の新法人（一般社団法人）への移行にあたり、代議員定数の見直しなどの検討の他、現在の体制を可能な限り維持しつつ移行できる制度的可能性を検討してきました。これまでに本部と支部との連結会計は実施済みですが、3月の総会で定款・一般規則・選挙規則変更案が議決されております。今後、支部規定などでの大幅な見直しが迫られることとなります。

そのような過渡期にあたりますが、今年度の支部活動は、支部活動の強化（会員の増強、財政の改善と強化、支部体制の見直し（各種委員会あり方検討）、支部活動の活性化（支部発表会、建築作品発表会、各賞、建築教育）の3項目に主に要約されます。

特に最近の経済不況に伴い個人会員、法人会員の減少は著しく、当支部は4月現在で、正会員53名の退会者があり、正会員880名、準会員1名、法人47、賛助会員6という状況です。会員数の減少を食い止めることと、さらに会員増強は急務で、これまで以上に北海道支部の存在や役割をアピールする活動が必要になっております。また、支部活動の見直しは主に各専門委員会を中心に行われてきておりますが、委員定数のあり方、委員会活動状況の点検・評価などについても課題として残されています。

2010年度は、建築作品発表会が30回を迎え、発表会及び作品集の編集など、これまでの成果をベースに意義ある記念事業として終えることができました。北海道建築界の健全な建築文化と建築批評の醸成に一層貢献していくためにも、本支部の特色ある事業としてさらなる発展が期待されます。さらに、本部の「特色ある支部活動」の調査研究テーマ募集で、本年度も前年に引き続き北海道支部のテーマが採用されており、本支部の活発な活動の一端をしめすものといえます。

1. 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2010年5月13日
会場 北海道第二水産ビル
出席正会員 54名（委任状 19通）

当支部地域在住正会員851名の30分の1、28名以上の出席により成立

2009年度事業報告及び収支決算、ならびに2010年度事業計画方針案及び予算案を審議し、異議なく可決承認された。

常議員会

5回開催

常任幹事会

5回開催

選挙管理委員会

1回開催

2. 学術系委員会の活動

2.1 学術委員会（主査：緑川 光正君，委員数：14名，委員会開催数：4回）

本委員会では、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に伝達するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画及び活動の報告を受けた。また、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特色ある支部活動企画の申請、特定課題研究の推薦、建築文化週間事

業企画および北海道支部技術賞の募集と選考を行った。

- ・ 特色ある支部活動企画：北海道支部からの応募はなかった。
- ・ 特定課題研究：「寒中コンクリート施工計画立案の合理化を目指した施工実態調査」(材料施工専門委員会より申請，本部助成 20 万円/年，2 年間)および「三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能性住居について」(北方系住宅専門委員会より申請，支部助成 9 万円/年，2 年間)の 2 件を常議委員会に推薦した。
- ・ 建築文化週間企画：「歴史的建造物の見学「建築散歩～小樽・積丹編」」(歴史意匠専門委員会)および「地震防災体験学習・・・親子で始める地震防災対策」(都市防災専門委員会)の 2 件を了承した。
- ・ 支部技術賞：12 月 15 日～1 月 15 日の募集期間に応募がなかったため，募集期間を 2 月 28 日まで延長したが応募がなかった。

2.2 専門委員会の活動

材料施工専門委員会（主査：桂 修君，委員数：22 名，委員会開催数：6 回）

2010 年度は、専門委員会を 2 ヶ月に 1 回程度の割合で、計 6 回開催した。委員会では、本部材料施工本委員会など各種委員会報告や諮問事項について検討し、材料・施工に関する情報や意見の交換を行った。また、興味ある話題や今日の話題について事前に担当を決め報告をしていただき、最近の研究動向について意見の交換を行った。2011 年 1 月 17 日(月)に「(仮称)Kビル」の現場見学会を行った。また、本委員会主催で、寒中・寒冷地工事技術講演会を、2010 年 9 月 27 日(北斗市)、10 月 7 日(旭川市)、10 月 8 日(札幌市)、10 月 26 日(釧路市)にそれぞれ 98 名の参加があった。

構造専門委員会（主査：田沼 吉伸君，委員数：24 名，委員会開催数：2 回）

定期的に委員会を開催して構造関連の情報交換を行い、下記の活動を行った。

- 1) 委員会開催
委員会を都市防災専門委員会と合同で 2 回行った(6 月 23 日，12 月 21 日)。また、必要に応じて通信会議を行った。
- 2) 見学会
溶接学会北海道支部、日本鉄鋼連盟と共催で開催
「新日本製鐵(株)室蘭製鐵所、追直漁港人工島および橋梁見学」
実施日時：2010 年 7 月 2 日(金)：参加者 85 名
- 3) 勉強会
12 月 21 日の委員会終了後、渡邊和之委員の担当で下記についての勉強会を行った。
「建築確認における構造審査の円滑化のための基礎的研究(構造設計の現状および構造計算プログラムの特性把握)」：JSCA から 10 名の参加
- 4) ドーム模型の試作
高校生などに空間構造への理解を求める目的で、長谷川委員が幾つかの簡易的な方法で模型の試作を行った。
- 5) HP の更新
2011 年 3 月 1 日に委員会の HP を更新した。

環境工学専門委員会（主査：羽山 広文君，委員数：28 名，委員会開催数：3 回）

本委員会は以下の活動を実施した。

- 1) 学位を取得した若手研究者の研究成果発表会を行った。
- 2) 第 5 回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs10 を開催した。札幌市立大学、北海道大学、北海道工業大学、北海道職業能力開発大学校、釧路工業高等専門学校から 76 名の参加者があり、48 題の発表が行われた。また、林達也氏(株)ドーコン)から基調講演をいただいた。
- 3) 高齢化社会に対応する生活環境整備の課題検討及び取り組みを実施するに当たり、特定課題研究「住環境の変化が身体へ与える影響の実態把握」を本部助成で実施した。

4)後援講演会:(社)空気調和・衛生工学会主催の地区講演会「女性の視点からのトイレ」(参加者150名)を行った。

建築計画専門委員会 (主査:門谷 眞一郎君,委員数:15名,委員会開催数:5回)

超高齢化社会の積雪寒冷地における居住環境整備の課題」を2010年度の活動テーマに研究協議を図った。主な事業として次の2件。少人数施設見学会「認知症対応 グループホーム しづく」(2010年06月06日(日)、委員4名参加)。活動テーマに関連し、委員会活動支援サーバの再構築(機器とシステムの更新、2011年1月開通 ~ <http://harchi-planning.plala.jp/moodle/> ~ OpenMeetings によるWeb ベースのTV会議システムを採用)。なお、2010年度支部道内工業高校巡回講演会「テーマ:フリーソフトで簡単プレゼン…効果的な表現のために」を実施(2011年3月9日(水)、於、北海道札幌工業高等学校、2学年70名+教諭11名の参加)。

都市計画専門委員会 (主査:坂井 文君,委員数:12名,委員会開催数:3回)

都市計画委員会は、年度中に主査の交代があり、若干名の委員の入れ替えが行われた。委員の構成については、委員会の指針である「学術・自治体・コンサルの縦断的な意見交換の場の提供」を達成するために、総委員数の15名が各部門でほぼ等分となることを配慮した。主査の交代によって、今年度の活動報告は後半半期についてであるが、委員会を3回開催した。委員会においては、新メンバーによる活動を開始するに当たって、委員会として取り組むべき課題について議論された。その結果、第三回目の委員会においては、北海道の地方都市の都市計画に関わる具体的な課題について議論するために、地域主権のまちづくりが始動しつつある釧路市の都市計画関係者との勉強会が行われた。

歴史意匠専門委員会 (主査:中渡 憲彦君,委員数:17名,委員会開催数:4回)

例年のとおり、道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関して委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として社会や住民に発言する活動を行った。2010年度採択された「特色ある支部活動:北海道における漁業関連建築の歴史的研究」を委員中心に実施し、報告書としてまとめた。また、一般市民への啓発・普及活動として建築文化週間中の10月9日に建築見学会「建築散歩~厚岸編」を実施し、定員を超える48名の参加が得られた。

北方系住宅専門委員会 (主査:鈴木 大隆君,委員数:16名,委員会開催数:2回)

2010年度は北海道の住宅にまつわる現状認識、問題などについて整理を行い、新たな地域住宅像形成に向けた取り組みについて議論を行った。また、北海道における「住まい」とそこでの「暮らし」のテーマを改めて考えるための活動として、三角屋根ブロック住宅の改修事例の見学会を開催し、三角屋根ブロック住宅の持続可能居住について検討、支部特定課題研究に申請した。

都市防災専門委員会 (主査:草苅 敏夫君,委員数:19名,委員会開催数:2回,通信委員会開催数:3回)

地域との連携活動については、釧路防災ワンデー2010(釧路市、9/26)へのイベント参加協力、地震防災対策をテーマにした建築文化週間事業「地震防災体験学習 in ななえ」の企画・運営協力を行った(七飯町、10/2)。さらに、災害委員会の支援のもと、防災ワンデー「釧路防災講演会2011」を開催した(釧路市、1/15、建築雑誌3月号に概要掲載)。

自然災害調査については、特定研究課題委員会として冬季の津波避難対策研究委員会の活動に対して協力した。

2.3 特定課題研究委員会の実施

(2009年度より)

冬季の津波避難対策研究委員会(主査:南 慎一君,委員数:8名,委員会開催数:4回)

冬季の津波避難対策に関する文献資料、避難施設の実態調査等を踏まえ、次の検討を行った。2010年チリ地震津波の際の浜中町民のアンケート調査結果から避難意識・避難行動を把握した。

また、津波荷重の水理模型実験、浸水深さと建物の保有耐力の解析、防雪対策の検討、冬季の避難施設の温熱環境等の実態調査を行った。さらに避難施設の管理運営状況の調査を行った。以上の結果から、津波避難施設の立地、建築計画、運営管理に関する要件を整理した。

2.4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2009年度より)

住環境影響の実態把握委員会(主査:羽山 広文君,委員数:5名,委員会開催数:3回)
本委員会は以下の活動を実施した。

- 1) 夕張医療センターの老健施設入所者を対象に、入浴時の身体への影響について、また訪問診療・訪問看護の受診者に対し、患者の生理データと温湿度の調査を実施した。
- 2) 札幌市および福井市において、一般市民から募った被験者を用い、入浴前後の居間および脱衣室での周囲温度と血圧の測定を行い、周囲温度と血圧の関係を明らかにした。
- 3) 福井県衛生環境研究センターおよび福井市大滝クリニック医師を招き、入浴環境が身体に与える影響について公開委員会を開催した。
- 4) 研究成果を日本建築学会、空気調和・衛生工学会、日本公衆衛生学会へ平成21年度8件、平成22年度12件発表した。また、2年間の検討結果を小冊子にまとめた。

2.5 特色ある支部活動の実施

北海道における漁業関連建築の歴史的研究(担当委員会:歴史意匠専門委員会 駒木 定正君,
委員数:18名,委員会開催数:6回)

研究の目的は、北海道における江戸期から昭和30年代までの漁業に関する建築の現況調査と分析・考察をおこないそれらの歴史的意義と特徴を明らかにし、漁場の建物を活かすまちづくりの支援にも寄与することである。

調査対象は1970年度の民家緊急調査(北海道教育委員会)の報告を基本とし、後の研究資料を加えて建物の実態をとらえた。その結果280件を上回る調査を実施。とくに後志(117件)、渡島(69件)が多く、一方これまで未調査の釧路、胆振で地域を代表する建物が報告された。また、北海道開拓記念館学芸員會田理人氏を招き漁業史の概説を拝聴した。

本州の調査は山形県遊佐町において小樽祝津の鯺漁家青山家・茨木家の建物を調べ比較考察する。大正期以降の遠洋漁業に関わる小樽と函館の社屋、工場、倉庫の現況と創建時図面の収集を行った。

積丹町美国と小樽市祝津の鯺漁家の修理工事に参画し再活用を支援した。

成果は支部研究発表会で発表の予定。

3. 委託調査研究の受託

該当なし

4. 支部研究発表会の実施(主査:瀬戸口 剛君,実行委員会委員数:16名,委員会開催数5回)

4.1 開催要領

日本建築学会北海道支部 第83回研究発表会

日時:2010年7月3日(土)9:30-19:30(受付9:00-)

場所:室蘭工業大学(室蘭市水元町)

4.2 実行委員会

実行委員会委員 [主査]瀬戸口,[構造]溝口,串山,[材料施工]濱,胡桃沢(幹事),[環境工

学]魚住，村田，[建築計画]門谷，千里，[都市計画]久保，[歴史意匠]武田，小林，[北方住宅]小倉，松村，[防災]土屋，高井(幹事)，[事務局]菊地

実行委員会開催回数 3回(第1回 11/06、第2回 1/29、第3回プロ編 4/25)

実行委員会スケジュール

11/06：第1回実行委員会，11月末日：建築雑誌入稿，1/29：第2回実行委員会，1月：建築雑誌会告，2月下旬：HP作成，3月上旬：HP原稿募集，4/15：原稿締め切り，4/24：第3回実行委員会プロ編，5月上旬プロ編校正，5月中旬：CD印刷入稿，6月中旬：CD発送，7/3：支部研究発表会

4.3 研究発表会 同日 9:30 - 15:30 (午前 9:30 - 12:00，午後 13:00 - 15:30)

論文総数 140題(開催時期を夏にしてから過去最高の論文数)

種別論文数

A原稿(講演研究論文)120題、B原稿(資料研究論文)16題、

C原稿(計画・技術報告)3題、D原稿(技術賞報告)1題

所属別論文数(第一著者および第二著者で判断、卒業生を含む)

北海道大学 54題、北海道立北方建築総合研究所 18題、北海道工業大学 12題、

室蘭工業大学 16題、北海道職業能力開発大学校 7題、釧路工業高等専門学校 5題、北海学園

大学 7題、東海大学旭川校 3題、札幌市立大学 3題、道都大 2，早稲田大 2，その他 10題

支部研究発表会 会計報告

| | | |
|---------|------|-------------|
| | 事業収入 | 1,290,535 円 |
| | 事業支出 | 943,478 円 |
| 支部研究発表会 | 事業収支 | + 347,057 円 |

4.4 特別企画：日本建築学会長講演会 同日 15:30 - 17:30

テーマ「まちづくり市民事業と中心市街地の再生」

会場：教育・研究1号館(A304)

司会：瀬戸口(北海道大学)，副司会：高井(北海道大学)，記録：武田(室蘭工業大学)

参加者：約 80名

特別企画の報告 <http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>

4.5 懇親会 同日 18:00 - 19:30 会場：サンルートホテル室蘭 参加者：48名

5. 表彰

5.1 北海道建築賞

(1) 北海道建築賞委員会(主査：大萱 昭芳君，委員数：7名，委員会開催数：3回)

本委員会は1975年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建設された建築(アーバン・デザイン等の領域も含む)の中から本賞・特別賞・奨励賞に相応しい作品を選考し、2010年度で35回目となった。選考の基準としては、作品の有する「先進性」、「規範性」および「洗練度」の視点を掲げている。

今年度は、4月15日(木)の応募開始から11月5日(金)の表彰式および受賞記念講演会まで、以下に示す一連の活動を通して第34回北海道建築賞を実施することができた。

5月10日(月)：第1回委員会 応募状況の確認および応募推薦作品の選定・スケジュールの確認。

5月28日(金)：第1回審査会 応募14作品が審査対象作品となることを確認。書類審査で現地審査対象作品8作品を選考。

6月27日(日)：第1回現地審査

「白のコレクション」「ミニマリストの家」「熊谷邸」「空方の家」(札幌市)

7月6日(火)：第2回現地審査

「北海道大学工学部建築・都市スタジオ」(札幌市)
 7月31日(土)8月1日(日):第3回現地審査(1泊2日)
 「江差旅庭 郡来」(江差町)「黒松内ねっぶ牧舎」(黒松内町)「GR230」(喜茂別町)
 8月26日(木):第2回審査会 最終選考を行い以下の結果となった。
 北海道建築賞 該当なし
 北海道建築奨励賞 「白のコラージュ」(山内 圭吉君/(有)山内圭吉建築研究所
 同上 「熊谷邸」(久野 浩志君/久野浩志建築設計事務所)
 11月5日(金):北海道大学遠友学舎にて表彰式および受賞記念講演会が開催され、設計者自身による授賞作品のコンセプト構築と設計プログラムへの展開、その実施プロセスについて詳しく解説され有意義であった。

審査員:

主査:大萱 昭芳君

委員:小篠 隆生君,加藤 誠君,久保田 克己君,佐藤 友哉君,鈴木 敏司君,
 山田 深君

(2) 受賞者

| | |
|----------|-----------------------|
| 北海道建築奨励賞 | 山内 圭吉君(有限会社山内圭吉建築研究所) |
| | 作品名 「白のコラージュ」の設計 |
| 北海道建築奨励賞 | 久野 浩志君(久野浩志建築設計事務所) |
| | 作品名 「熊谷邸」の設計 |

(3) 審査経緯

北海道建築賞委員会は、2010年5月10日、札幌市内で平成22年度の第1回委員会を開催した。審査プロセスとスケジュールについて昨年準拠を確認したうえで応募状況を検討し、支部主催の「建築作品発表会」他から委員からの応募推薦4作品を選び、各設計者に正式な応募手続きを依頼した。

第一回審査会は5月28日に札幌市内で開催され、6委員によって以下の応募14作品が審査対象とされた。

応募作品及び応募設計者(順不同):

1白のコラージュ(山内 圭吉君/(有)山内圭吉建築研究所)
 棲華崖(渡辺 一幸君他/北電総合設計(株)他)
 HOUSE K(高木 貴間君/(株)設計舎)
 黒松内ねっぶ牧舎(蔵島 二三君他/(株)シエマ・アーキテクツ)
 不即不離(君 興治君/(株)アトリエキミ)
 三井アウトレットパーク札幌北広島
 (奥村 浩和君他/三井住友建設(株)設計本部他)
 日本生命札幌ビル(鳥谷部 隆司君他/(株)久米設計札幌支社他)
 GR230(前川 尚治君他/(株)コウドー級建築士事務所)
 四季の家(宮崎 正之君/(株)エー・ジー総合設計)
 ミニマリストの家(畑中 秀幸君/スタジオ・シンフォニカ(有))
 熊谷邸(久野 浩志君/久野浩志建築設計事務所)
 空方(そらざま)の家(堀尾 浩君/堀尾浩建築設計事務所)
 江差旅庭 群来(中山 眞琴君/(株)ナカヤマアーキテクツ)
 国立大学法人北海道大学工学部建築・都市スタジオ
 (小林 英嗣君他/北海道大学他)

最初に、審査の作法は多数決ではなく議論を通じて全委員の同意を得ること、評価の視点は従前同様、コンセプトと設計プログラムおよび実体的表現の「先進性」・時間空間軸における自然を含めた人間社会に対する「規範性」・それらを統合して美の創造を目指す「洗練度」の3項目とすることを確認し、現地審査対象作品を選定する書類審査に移った。応募資料を読み解きながら、各委員による個別評価と活発な議論の末に、現地審査該当作品（順不同）として以下の8作品が選定された。

1白のコラージュ（山内 圭吉君 / (有)山内圭吉建築研究所）

黒松内ねっぷ牧舎（蔵島 二三君他 / (株)シエマ・アーキテクツ）

GR230（前川 尚治君他 / (株)コウドー級建築士事務所）

ミニマリストの家（畑中 秀幸君 / スタジオ・シンフォニカ(有)）

熊谷邸（久野 浩志君 / 久野 浩志建築設計事務所）

空方（そらざま）の家（堀尾 浩君 / 堀尾浩建築設計事務所）

江差旅庭 群来（中山 眞琴君 / (株)ナカヤマアーキテクツ）

国立大学法人北海道大学工学部建築・都市スタジオ

（小林 英嗣君他 / 北海道大学他）

現地審査は委員七名の過半の参加を原則に3回に分けて実施された。第1回は、6月27日 に札幌市内で、 白のコラージュ・ ミニマリストの家・ 熊谷邸・ 空方の家の住宅。第2回は、7月6日 に札幌で、 国立大学法人北海道大学工学部建築・都市スタジオ。第3回は7月31日 と8月1日 、一泊二日の行程で、 江差旅庭 群来・ 黒松内ねっぷ牧舎・ GR230。第1回第2回は好天に恵まれたが、第3回は前日の豪雨で順路が一部不通となり、大幅な迂回を余儀なくされた。しかし、いずれも周辺環境を含めて建築空間の内外を詳細に観察し、設計者やクライアントとの意見交換も交えて有意義な現地審査となった。

最終審査会は8月26日 、5委員出席、2委員から委任（内1委員からは意見表明）のもと札幌市内で開催され、現地審査作品を対象に最終選考が行われた。審査に先立ち次のことを確認した。計画および設計に関与した委員は、当該作品に対する見解表明を避け個別討議の際には席を外す。

選考審査は、各委員が作品に関する見解を述べたのち、作品ごとの自由討議に移り多角的視点から活発で真剣な討議が長時間続いた。やがて、個々の作品の評価と意義が整理され、本委員会の総意として北海道建築賞および同奨励賞について以下の決定をした。

北海道建築賞 該当作品なし

北海道建築奨励賞

「白のコラージュ」 山内 圭吉君 / (有)山内圭吉建築研究所

「熊谷邸」 久野 浩志君 / 久野浩志建築設計事務所

今回、北海道建築賞に該当する完成度の高い作品に恵まれず残念な結果となったが、住宅作品には新しい息吹を感じさせる作品が多く、上記の二作品が北海道建築奨励賞の栄誉を得た。

一連の審査を通じて、一昨年のリーマンショックを契機とした世界同時金融不況によって、それ以前のミニバブルに踊っていた感のある建築界が大きなダメージを受けていることを実感させられた。大型プロジェクトでは、設計者が建築家としてじっくりと時間をかけ、コンテンツやアイデアを練り上げる余裕がないことを窺わせたのに対し、小住宅の分野では時間のできた建築家とクライアントが、互いに納得するまで語り合い、予算と格闘しながらも新しい住まい方に、果敢に挑戦する姿を垣間見ることができた。

現地審査8作品のうち6作品は残念な結果となったがいずれも労作佳作であり、評価の要点を以下に述べ、今後の活躍に期待したい。

●黒松内ねっぷ牧舎：研修棟・コテージ群・浴室棟・倉庫棟から構成された木造建築群だが、個々のデザインに質の差が大きく、内外とも全体としてアンバランスな空間となっている。前記した経済状況の中で、クライアントの企業代表者が交代したため、利用計画が白紙撤回という残念な状況にある。研修棟と倉庫棟は新しい表現に成功しているため、新たな利用計画が待たれる。

●GR230：この案件に関しては、書類審査の段階で公共建築の「道の駅」と考えて評価していたことが、実は間違いであったと、現地での設計者による説明で明らかになった。したがって、最終審査では論評自体を控えるという結論となった。

●ミニマリストの家：1個の大きな直方体空間に2個の小さな矩形空間を1個ずつ内外に配し、階段空間と内外を貫通するブリッジでシンプルに構成されている住空間は多様な視点を提供し、トポロジカルな空間操作は高く評価された。一方、外皮を構成する小幅板による立面構成は、恣意的で装飾的と指摘された。

●空方の家：時間とともに湿さを増す合金版に包まれた外壁に対し、内部は天窓に続く吹抜け空間の周りに多様な小空間を螺旋状に配し、ポアラスで柔らかな住空間を生み出している。その空間構成と環境設計は高く評価された。しかし、複数の内部仕上げと三次元に角度のついた形態による内部構成の複雑さは混乱した印象で秩序感を見出しにくいとの指摘がされた。

●江差旅庭 群衆：美しい打ち放しコンクリートの高塀で囲まれ、僅かに玉石を乗せた黒い傾斜屋根を見せるだけの外観は、シンプルで研ぎ澄まされた景観を生んでいる反面、江差の町並みとは断絶した都市空間となり、規範性の視点から問題を指摘された。コンクリート壁で視界をさえぎられた細い斜路の先には、エントランスからロビーラウンジ空間、さらに細い廊下の先に配された食事室と個室群。塀の内側に展開される玉石だけの庭。あらゆる場に展開される洗練された美意識と手仕事への拘りに、先進性と洗練度の高い評価がされた。

●国立大学法人北海道大学工学部建築・都市スタジオ：既存建築群との関係性、建築を学ぶ場としての意味性と重層的機能性など、建築に係わるダイヤグラムが究めて精緻に構築されたことが伝わってくる。しかしただ一点、空中に浮かぶスタジオの建築的表現に関しては、異論が多く出された。コルビジェがピロティによって人に大地を解放し、屋上庭園によって太陽の恩恵を維持しようとしたことを想起したい。ガラスで囲まれたスタジオが視覚的に構造的自立性を持たず、コートをはさんで建つ強固なRC構造物に依存しなければならない在り方には、形態と構造の関係性から問題があることが指摘された。

(文責：大萱 昭芳)

(4) 審査講評

北海道建築奨励賞 「白のコラージュ」

住宅は、居住という行為を成立させることができる器である。そこには、社会の最小単位といえる家族や個人の生活を想起した空間があり、そこで彼らのプライベートに満ちた活動が展開される。

この作品の敷地は、都市の中の街区公園の隣に隣接している。街区公園は、都市生活を豊かにするための環境として、緑陰や花壇、小運動や休息ができるオープンスペースが提供され、都市生活者のために、都市が提供するオアシスと言える空間である。そこは、誰もがアクセスでき、その空間を使うことが許されている公共性を有している。

このような空間にあえて隣接し、そこに住宅をつくる。プライベートとパブリック、まったく異なった機能が併置され、しかも双方に対して何らかの関係性をつくるという都市住宅にふさわしいが、それをどのように解くのが試されるプログラムを設計者は敢えて作りだした。そこには、都市に存在する建築として求められる公共的側面を取り込み、それを住宅としての空間構成や表現の領域で十分にデザインし、相容れないと考えられる2つの要素を昇華させ、住宅という建築に結実させるという設計者の強い意思を感じ取ることができる。

このような外的要因に対する明快な意思だけでなく、住宅として十分に配慮された空間構成もこの作品の特徴である。それは、階段を利用した空間移動の際に劇的に体感される感覚である。狭小の敷地ゆえに、4層に積み上がった構成を利用して、異なるレベルからプライベートの領域にパブリックの要素が侵入する。2階のホールに隣接したバルコニーは、大きく住宅の空間をえぐり取り、その壁面や天井面は、鏡面のステンレス板が貼られることで、公園の活動や風景が住宅の中に入ってくるのである。公園の緑や人々の動きが実像と虚像の中に交錯し、住宅の中に外部の風景が織り込まれる。また、3階には、住宅の中心となる居間がしつらえられているが、高

さが少し下げられたダイニングの開口部からは、公園の樹木の枝のフィルター越しに、公園での人々の活動が飛び込んでくる。3階という高さをもたらす距離感を巧みに利用し、プライベート空間とパブリック空間の共存を可能にしているのである。さらに階段をつたって4階に上がると、そこにしつらえられた屋上は、意図的に構成された細長いボリュームを公園の方向に軸を取り、公園をも利用しながら、空との連続性というここに住む者だけが獲得できる魅力をもたらすことに成功している。外壁色の白も、外部や内部の風景を映し込んで周囲の風景に呼応しようとするしかけであるし、公園からの視線を十分意識した結果でもあろう。まさに、作品名の「白のコーラージュ」が具体化されているのである。

設計者は敢えてこの狭小で変形した土地を購入し、そこに都市住宅を建設した。住宅というプライベート空間であっても、私的な物語に埋没するのではなく、敷地の場所としての意味を汲み取り、都市にどのように参加するのかという姿勢は、都市の中で住宅という建築をいかにつくるのかという設計者の積み重ねてきた思考と技術の結晶である。この作品が与える清々しい清涼感は、設計者の明確な意図とそれを裏打ちした技術の結実から生まれるものであろう。「都市住宅」としてのひとつの卓越した成果として、ここに北海道建築奨励賞を贈るものである。

(文責：小篠 隆生)

北海道建築奨励賞 「熊谷邸」

2階建ての家が建ち並ぶごくありふれた住宅街のなかにあって、一見して明らかに異質な佇まいである。周囲より高くかつ低く、また周囲より細くかつ広く、それは辺りのいかなる住宅とも異なるようなあり方で風景の中に現れる。

木造3階の塔と地面に約70cm埋められたRC造部分からなる、延床面積80㎡の小住宅である。塔とRCの低層部分は、敷地の対角線上に雁行するように配置され、その前後には建物本体と同程度のボリュームの外部空間がつくられている。3層の塔以外は人の背丈ほどの高さであるために、これらの外部空間はどこも明るく開放的であり、大きな空や四方の景色をそのまま眺め渡すことができる。外部階段によって、スキップフロアのような感覚で広場のような屋上に上がると、敷地全体および周囲の家々を何か不思議な親しい距離感で感じ取ることができる。そしてこのゆったりとした空間的な拡がり、高さ8mの塔が引き締めている。一方、庭からも大振りな窓からその様子が窺える半地下の内部に入ってみれば、目線の先に庭の足元が拡がり、それはまさに庭に抱かれてあるかのような心地よさである。GL-70cmが、室内と庭との絶妙な関係をつくり出している。

つまりこの住宅において作者は、内部と外部、あるいは建築と外構(庭)というヒエラルキーを無にして、それらを同じ土俵において、同等にかつ立体的に解こうとしている。敷地の全体を使って、内部や外部あるいは地面や屋上も分け隔てなく、横にも縦にも同等に関係づけることで、住宅におけるそれぞれの場の関係を新たなものへとさりげなく組み替えている。日常的な風景も、目線を変えれば全く異なったものに見えるものだが、例えばここでは、庭の花々を目前に眺めながら料理をし、地表の草々と同じレベルで繋がったかのようなテーブルで食事することは、一般的な庭木や観葉植物を愛でることとは異なる新鮮で心地よい経験となるだろう。そしてこのような地表面とともに空間があることの楽しみ、塔上部の寝室からの俯瞰する視線があることによって、より強調されるように感じられる。

これらの構成と関係性を純粋に際立たせるために、仕上げは白塗装と白木とに限定され、またディテールには様々な工夫がなされている。例えば、内部からの視界を邪魔しないように、窓枠やハンドルは壁面に隠され、あるいはカーテンレールの存在は消されている。これらの工夫は、高度に洗練されたものというよりも、むしろごく身近なモノを細工したような微笑ましいものでもある。細部まで自らの手で徹底して工夫しようとする作者の意気込みは、肩肘張らずにさりげなく全体に融け込んでいる。

この住宅から感じられるのは、建築というひとつの実体的なモノである以上に、敷地全体に及ぶ空間的な振る舞いのようなものである。建築と外部空間という古今東西様々に模索されてきた関係のあり方にも、壁に対する強い意識がある北海道においてのみならず、まだ展開の余地があることを考えさせられる小品である。

(文責：山田 深)

5.2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

（1）卒業設計優秀作品審査委員会（主査：菅原 秀見君，委員数：6名，委員会開催数：1回）

2010年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に候補作品各々について合同で審査を行い、合議の上各賞を選出した。審査に先立って学会の表彰規定における表彰の目的、それに基づく審査の考え方を各審査委員で確認した。

本年度は「大学」の部で総合的に見て突出して優秀な作品がなく、銅賞3点という選定となった。他年度の作品の水準から俯瞰した結果でもあり、厳しい評価をすること自体が建築教育向上へのメッセージであることを審査員全員の総意として確認したうえで判断した。「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部では金賞、銀賞、銅賞各1点を選出した。

また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員：

主査：菅原 秀見君

委員：小倉 寛征君，上遠野 克君，小西 仁彦君，齊藤 文彦君，中山 眞琴君

（2）受賞者

大学の部（応募作品数：14点）

- ・銅賞 渡會 未希君：北海学園大学工学部建築学科
作品名 — 無時間の庭
- ・銅賞 山下 竜二君：北海道工業大学工学部建築学科
作品名 — 森の境界～北海道工業大学学生寮～
- ・銅賞 松田 耕君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
作品名 — 線の風景

短大・高専・専門学校の部（応募作品数：5点）

- ・金賞 金原 圭佑君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
作品名 — 知床再生記
- ・銀賞 坂入 聡美君：釧路工業高等専門学校建築学科
作品名 — BOOK PARK - よりみちでつくる本とのあい人とのふれあい -
- ・銅賞 下平 雅也君：釧路工業高等専門学校建築学科
作品名 — Natural Harmony～建築と自然の調和～

工業高校の部（応募作品数：7点）

- ・金賞 前田 洋平君：北海道札幌工業高等学校建築科
作品名 — FBS Station～街と人、自然と人との関わりあい～
- ・銀賞 吉田 峻真君：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 — MILLION 100万ドルの裏夜景
- ・銅賞 山下 希望君：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 — astronomical observatory of HAKODATE 宇宙の旅人

（3）審査講評

大学の部

銅賞・渡會君

建築は技術の集積だけではないし、ましてや芸術化された建築もどこか不安定な気分させられる。統合的要素が求められるのである。CADに染まった建築制作も、どこか悲しい現実なのである。

その中で、この「無時間の庭」はどこかなつかしい、カリカリ書いていた昔を思い出させてくれる。力強く、詩的で美しい。人間精神復活装置のような作品であり、個人的には一番好きな作品だ。ただし何かひっかかる。作為に満ち溢れているのである。この手の作品はその作為性の現陰も作品の良悪になってしまう。何かプリミティブさが感じられない。精神とは純化された空間でのみ喚起される。

利休は言った「叶ふ八よし、叶いたがる八あしゝ」。

(文責：中山 眞琴)

銅賞・山下君

北海道工業大学のキャンパスを囲むように計画された学生寮を主とする建物である。現存する学校林と混ざり合いながら四周を囲む計画は樹木との共生そして融合するための形を建築のフォルムに置き換える操作により決定しているところが醍醐味である。マッシブな大学の校舎群に対して対照的である。この建築の森を潜りぬけアプローチするシークエンスは特殊なものになるに違いない。しかしどこか均質化してしまっているこの空間が多少気になる。本当の森は均質でも飽きさせない。そこには不均質な現象(四季による)が存在するからである。もしこれに匹敵する操作がこの建築にあったならば、と思い銅賞に納まった。

(文責：小西 彦仁)

銅賞・松田君

新たな風景をつくりながら札幌の都市周縁部に広がる耕作放棄地などの問題解決に取り組んだ計画。この計画を魅力的にしているのは、自然環境を克服すべく築き上げた防風林や区画割りという先人達の築いたインフラを尊重する建築であること、建築が拡張可能な「しくみ」を持ち、その拡張プロセスの提案があること、結果として生まれる新たな風景を印象的に描き出していることである。具体的な生活像や環境技術、農業生産性など検討すべき課題は残されているが、都市的規模の問題に挑む姿勢、時間の経過とともに一見すると価値が無くなってしまった場所や空間に今日的な価値や意義を与え直すことに成功している点を高く評価した。

(文責：小倉 寛征)

短大・高専・専門学校の部

金賞・金原君

知床の海岸沿いに建つ歴史館、リノベーション住宅、バンガローの複合プロジェクトである。産業の後継者の減少や環境問題などの現実的な問題意識に立ち、ありのままの知床を見せることを建築の機能としている。海への視界を遮らない低層の歴史館から、より自然の深部へ誘われる空間構成、それぞれの空間のシークエンスが知床を見せるという設計意図を美しく建築化している。コンセプトを空間に置き換える技量、設計意図を正確に伝えるプレゼンテーション技術などによる総合力に加え、壁面で構成されたファサードが印象的な建築であり、金賞に値すると評価した。

(文責：菅原 秀見)

銀賞・坂入君

「自然」と「ゆっくり流れる時間」にめぐまれたまちの未来に思いをよせて、既存の公園に「知る」「集う」「残す」のキーワードで本の丘(図書館)、集いの山(コミュニティー施設)、本の木(古本図書館)がデザインコンセプトのもと、複合的に設計されています。それぞれのアクティビティーと建築の関係がよく考えられ、特に本の木は訪れたいと思う楽しさが表れています。個々の施設間の関係性、有機的なつながりがもう少し表現されていたら、よりみちのゲートからのシークエンスが、素晴らしいものになったと思います。提案・構成共に優れた作品です。

(文責：上遠野 克)

銅賞・下平君

建築に与えられた普遍的なテーマを表題とした作品である。勿論、自然界にあるような形態を用いるだけで「建築」が「自然」と調和するわけではない。しかしながら、作者は、自然界の様々なイメージをコラージュした施設を計画することで、考察を重ね、ひとつの独創的な作品に纏め上げた。実際の土地、実際の用途(子どもが利用する博物館)、自然界のイメージ(DNA、心臓、根菜類)これらを想定することで、本来建築に必要な役割とあるべき姿が見えてきたのではないだろうか。自然と調和する建築については、今後も考えてほしい。表現の一貫性とその努力に対し賞を与えるに相応しいと判断した。

(文責：齊藤 文彦)

工業高校の部

金賞・前田君

駅と図書館、美術館の複合を明快でかつシンプルにまとめている。駅により分断される区域をそれぞれ「田舎」(自然)、「都会」と位置づけ、そこにある駅のありかたを心理的、動線的に分析し、違和感なく運用される現実的なイメージをもたらしている。空間構成は駅空間に「田舎」「都会」を結ぶ公共空間が角度を持って突き刺さっており、そのうえにギャラリーがあるというきわめてシンプルな構成である。建築の背景となるランドスケープも巧みにデザインされており、シンプルさの中から空間の豊かさを感じられる力作である。

(文責：菅原 秀見)

銀賞・吉田君

高校の部の作品は少し優しく語らないといけない。これから大学や社会に出て日本を作る一員になってほしいからだ。私も含め多くの人が今回の震災で建築は無力だということを思い知ったからだ。

復興に向けて日本の建築や美しい風土が新しい法律で更にだめにならないことを祈る。

「MILLION」は日本の建築教育が多少理工学的ではないのかという気持ちにさせられた作品だからだ。きちっと制作されてはいるが、少し納得できない。「はこだて」を感じられないからだ。もっと日本を美しく、風土や歴史に合った建物が今、日本の建築界に求められているのではないか。東京も北海道もどこも同じ工法、材料で建築を作るのはもうやめてもらいたいものである。それは我々大人が見本を見せるべき時ではないのか。

(文責：中山 眞琴)

銅賞・山下君

函館に建つ天文台である。天文台としての機能に加えてカフェやミュージアム、研修室などを設けることで観光、学習、交流の機能をバランス良く持たせている。人々の活動の様子を伝える内観パース、家具デザインなど細部まで気を配る設計への姿勢が見られたこと、丁寧に書き込まれた図面、複雑な形態を再現した模型など作品への情熱を感じ取ることができるプレゼンテーションであったことが高く評価された。

(文責：小倉 寛征)

5.3 優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

2010年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

松田 耕君・齊藤 絢子君：北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース
目崎 史子君・高橋 里奈君：北海学園大学工学部建築学科
今瀧 大地君・矢後 亮君：北海道工業大学工学部建築学科
木村 友昭君・田澤 伸悟君：室蘭工業大学工学部建設システム工学科
大澤 唯香君・川崎 智君：東海大学芸術工学部建築・環境デザイン学科
横山 由季君・瀧川 友里君：道都大学美術学部建築学科

中村 明子君・柿林 政孝君：札幌市立大学デザイン学部デザイン学科空間デザインコース
下平 雅也君・佐藤 夏生君：釧路工業高等専門学校建築学科
大野 修平君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
浜野 美咲君：北海道職業能力開発大学校建築科
梅津 早苗君：札幌市立高等専門学校専攻科インダストリアルデザイン専攻
富田 龍也君：北海道札幌工業高等学校建築科
蜂谷 雅君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
鎌田 静香君：北海道小樽工業高等学校建設科建築デザインコース
青木千賀子君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
山下 希望君：北海道函館工業高等学校建築科
渡辺 里菜君：北海道函館工業高等学校定時制建築科
原 邦晴君：北海道旭川工業高等学校建築科
高井 智弘君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
岩瀬 裕也君：北海道苫小牧工業高等学校建築科
成田 拓斗君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
加藤 早織君：北海道帯広工業高等学校建築科
畑中 堅君：北海道釧路工業高等学校建築科
西俣 瑞希君：北海道名寄産業高等学校建築システム科
河内 洸樹君：北海道美唄工業高等学校建築科
畑山 佳弘君：北海道室蘭工業高等学校建築科
佐々木政美君：北海道留萌千望高等学校建築科
三科 優斗君：北海道北見工業高等学校建設科

5.4 日本建築学会北海道支部功労賞

本賞は、当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員に対して感謝の意を表するとともに、更なる支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的としている。2010年度は、該当する法人・賛助会員等はなかったが、今後も引き続き表彰する予定である。

5.5 日本建築学会北海道支部技術賞

(1) 北海道支部技術賞選考委員会(主査：緑川 光正君，委員数：10名)

選考委員：支部長、学術委員会委員長、各専門委員会主査の計10名
・12月15日～1月15日の募集期間に応募がなかったため、募集期間を2月28日まで延長したが応募がなかった。

6. 北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会(主査：米田 浩志君，委員数：4名，実行委員数：10名，委員会開催数：6回(実行委員会4回を含む))

2010年12月3日の発表会に向けて第30回北海道建築作品発表会委員会が複数回開催された。4名が参加した北海道建築作品発表会委員会は2回開催された。2010年度は第30回記念北海道建築作品発表会になるため、改めて発表会の方針や実行委員のメンバー構成を検討した。さらに、実行委員6名が加わった実行委員会は4回開催された。

実行委員会の具体的な作業としては、応募要項の作成、作品の受付、プログラム編成、作品のデータ集約などである。今回の第30回記念発表会に向け、そのプログラム、および30周年記念

誌の編集内容を検討した。結果として 30 周年に相応しい発表会を開催することが可能となった。当日は、第 30 回建築作品発表会作品集 VOL-30 を発刊した。また、発表会の内容について、北海道建築士事務所協会誌「ひろば」2010 に実行委員の菊池規雄氏が執筆した。また、日本建築学会「建築雑誌」2011/3 月号に山田深が執筆した。加えて 2010/12/15 付けの北海道新聞文化欄に米田浩志が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

第 30 回建築作品発表会の報告

期日 2010 年 12 月 3 日

会場 北海道立近代美術館講堂

発表作品数 31 題

参加者約 300 名。「北海道建築作品発表会作品集 2010 VOL.30」を発刊。

7 . 特別委員会

7 . 1 事業主査連絡会 (事業系 5 委員会の主査および事業系担当常議員 , 連絡会開催数 : 1 回)

本連絡会では、事業系 5 委員会の事業進捗状況と連携、その際の問題点等の把握、常議員会へ改善提案等の活動を行うこととしている。過去議題にあがった事項の対応として、本年度についても建築文化週間中に第 35 回の北海道建築賞表彰式と記念講演会が実施された。また、卒業設計審査委員会より出されていた HP への入選作品の掲載については、HP 管理委員会との連携し最新年度までが掲載されている。

7 . 2 総務委員会 (委員長 : 菊地 優君 , 委員数 : 4 名)

経理関連業務としては、平成 20 年度の導入された新会計基準に基づき、支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理を行った。収支状況について、四半期に一度の頻度で、常議員会にて報告した。

日本建築家協会北海道支部との連携に関しては、合同委員会 (1 回) を開催して、両団体の活動に関する情報交換を行った。また、両団体の合同企画として、ジョイントセミナー (2 回) を実施した。

7 . 3 ホームページ管理委員会 (主査 : 谷口 尚弘君 , 委員数 : 5 名)

当委員会は、2001 年 4 月に開設された当支部ホームページの管理を活動の目的とし、委員会の定例開催は特に設定していないが、掲載内容等について適宜通信により協議することとしている。

2007 年 1 月より、新しいホームページ管理委員会規定に基づき活動しており、講演会の開催案内、北海道支部研究発表会や北海道建築作品発表会の募集案内等の掲載を行い、北海道支部の広報として活動した。また、今年度は各委員会のホームページの更新はされなかったため、各委員会には、積極的に更新するようあらためて要請しなければならない。

8. 講習会・シンポジウム等の開催

8.1 講習会

(1) 本部主催講習会

| 名 称 | 期 日 | 会 場 | 講 師 | 参加者数 |
|---------------------------------------|------------|-----------|----------------|------|
| 2010 年度支部共通事業「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」改定講習会 | 2010.11.24 | ホテルノースシティ | 安岡千尋君 他 2 名 | 39 名 |
| 2010 年度支部共通事業「小規模建築物基礎設計例集」講習会 | 2011.3.8 | ホテルノースシティ | 平出 務君 他 2 名 | 36 名 |

(2) 支部委員会主催講習会（セミナー）

該当なし

8.2 講演会

(1) 本部主催講演会

該当なし

(2) 支部主催講演会

| 名 称 | 期 日 | 会 場 | 講 師 | 参加者数 |
|--|-----------|---------------------------|----------------|---------|
| 会長記念講演会 「まちづくり市民事業と中心市街地の再生」 | 2010.7.2 | 室蘭工業大学 | 佐藤 滋君 | 約 80 名 |
| 「防災ワンデー2010」 ～防災意識の向上・安心安全な街づくり） (本部災害委員会共催) | 2010.9.26 | 釧路市消防本部 釧路市民防災センタ ー | 釧路市担当 者 | 約 500 名 |
| 建築文化週間「第 35 回北海道建築賞表彰式・記念講演会」 | 2010.11.5 | 北海道大学遠友学舎 | 山内圭吉君 久野浩志君 | 約 70 名 |
| 第 30 回北海道建築作品発表会 | 2010.12.3 | 北海道立近代美術館 大講堂 | 作品数 31 点 | 約 300 名 |
| 防災ワンデー 「釧路防災講演会 2011」～地震・津波災害から身を守る～ | 2011.1.15 | 釧路市生涯学習セン ター | 岡田成幸君 | 約 200 名 |
| 「中近東の建築」 | 2011.1.31 | 北海道函館工業高等 学校 | サデイギア ン・タギ君 | 79 名 |
| 「フリーソフトで簡単プレゼン ...効果的表現の工夫」 | 2011.3.9 | 北海道札幌工業高等 学校 | 門谷眞一郎 君 | 70 名 |

(3) 支部委員会主催講演会

| 名 称 | 期 日 | 会 場 | 講 師他 | 参加者数 |
|--|------------------------------------|---|-----------------|------------|
| 「寒中寒冷地工事技術講演会」 (材料施工専門委員会) | 2010.9.27 10.7 10.8 10.26 | かなでーる 北方建築総合研究所 北海道大学 釧路工業高等専門学校 | 濱 幸雄君 他 4 名 | 合計 98 名 |
| 建築文化週間「みんなで始める 地震防災対策」 (都市防災専門委員会) | 2010.10.2 | 七飯町大山中コモン | 北大,釧路高 専,北総研 | 66 名 |
| 第 5 回環境工学系・卒業論文発 表会 EGGs10 (環境工学専門委員会) | 2011.3.10 | 北海道大学工学部 | 発表題数 48 題 | 76 名 |

8.3 展示会

| 開催日 | 名 称 | 会 場 | 参加者数 |
|---|-----------------|---|--------------------------------------|
| 2010.5.12 ~ 5.14 5.20 ~ 24 6.4 ~ 6.6 11.17 ~ 19 | 全国大学・高専卒業設計展示会 | 室蘭工業大学 東海大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校 | 167 名 374 名 165 名 150 名 |
| 2010.7.6 ~ 11.12 | 道内工高卒業設計優秀作品巡回展 | 道内工高 12 校 | 合計 429 名 |

8.4 見学会

| 開催日 | 見 学 場 所 | 解説者 | 参加者数 | 主 催 |
|-----------|----------------------------------|-------|------|----------------|
| 2010.7.2 | 「新日本製鐵(株)室蘭製鉄所」見学 会 | 現場担当者 | 85 名 | 構造専門委員会 |
| 2010.12.3 | 「住宅見学会 三角屋根コンク リートブロック造住宅」見学会 | 現場担当者 | 10 名 | 北方系住宅専門委員 会 |
| 2011.1.17 | 「Kビル計画」見学会 | 現場担当者 | 17 名 | 材料施工専門委員会 |

9. 本部関連事業・その他

9.1 2009年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会(主査:川人 洋志君,委員数:5名,委員会開催数:1回)
委員会活動として設計競技審査会を2010年7月21日、午後6時より日本建築学会北海道支部会議室に於いて、5名の委員全員出席のもと開催した。本年度の設計課題は「大きな自然に呼応する建築」であり、8案の応募があった。5名の委員全員による活発な討議を経て3案を支部入選案として決定した。

支部審査員:

主査: 川人 洋志君

委員: 赤坂 真一郎君,小西 彦仁君,那須 聖君,山之内 裕一君

(2) 審査講評

「環境教育学校」

城市滋・村松秀美・花岡竜樹・武田健太郎-東京理科大学大学院工学研究科

恵まれた自然環境を持つ湿原の只中に、なぜこのような教育施設を建設するのか疑問を感じながら案を読み進むと、実は近年、周辺開発の影響による生態バランスの変化から、土地が乾燥し様々なエリアで湿原が失われているという。この案は湿原崩壊の著しい場所に、子供達が滞在できる簡素な建築をプロットしていくというものであるが、この小さな建築、実は湿原の乾燥化を防ぐ機能が隠されている。その技術的リアリティがどの程度のものなのか評者には理解できなかったが、建築をつくること、それ自体が自然破壊であるという重い命題に、清々しく軽やかな発想で答えようとする姿勢に好感を持った。

(文責:赤坂真一郎)

「Crawling marsh」

高橋幸宏・永島健児・山田健介-北海道大学大学院工学研究院

この提案は、釧路湿原とそれと近接する都市の隣接性に着目し、人口減少時代のコンパクトな都市像への転換と、それによって可能となる湿原と人々の新たな関係づくりを試みる提案である。人口のコンクリートをはがし、現に資源としてある地下水を利用し、地上を湿原へと転換する。その上で、都市が強い境界で湿原と接するのではなく、葉脈のような木道上に形成された住宅群によって緩やかな湿原と都市の関係をとっている。まちをコンパクトにすることと、葉脈上に伸びる周縁部において、自然への環境の連続性が、独特のパターンで検討されており、人工環境を自然環境へといかにスムーズに接続していくかという点での示唆が感じられる提案である。

(文責:那須 聖)

「Rebirth to Reverse」

米本 健・山谷 学・長谷部久人・斉藤裕貴-北海道大学大学院工学研究院

北海道開拓の歴史は、自然と人工の闘いだっただ。約100年前のことだ。北海道開拓史の官吏旧永山武四郎邸に近く点在する敷地群が選ばれたのは偶然の符合だろうか。

提案は、札幌市の中心市街地にある駐車場や空気を壁で囲い、都市に侵略された自然を解放する不可侵領域をつくる。そこでは樹木が自生し、鳥が木の実をついばみ種子を運び街の中に緑のネットワークをつくることになる。そして、四角い幾何学的な開口部がうがたれた建築的な壁が、都市生活者の舞台装置のように空地を取り囲む。きわめて人工的な壁を媒体に、かつてのような闘いでなく、光や風を感受する多様性ゆえに自然を受け容れる、真の自然の大切さへの気づきを鋭く提起している。

(文責:山之内裕一)

9.2 作品選集支部選考の実施

(1) 作品選集支部選考部会活動報告(主査:植田 暁君:委員数7名:委員会開催数2回及び現地審査)

作品選集2011の募集に、北海道支部では9作品の応募を受けた。

支部選考に先立つ本部委員会で、書類選考と複数の委員による現地審査を、全支部共通の審査方法として申し合わせた。全国の応募総数は作品選集開始以来、史上2位の301作品だった。一方、支部の応募数は、2009年度よりも1作品少なくなった。その相対関係から支部推薦枠が減り、本年度は4作品の推薦が可能と割り出された。Aランクは昨年同様、2作品の推薦が可能となった。第1回支部選考部会では、現地審査対象作品の書類選考を行った。応募資料を選考基準に照らし、作品ごとに議論を進めた。札幌市内の5作品、岩見沢市内の2作品、計7作品を選定した。最低2名の委員が、6月下旬から7月下旬に掛けて現地に赴いた。

第2回支部選考部会では、応募者による資料の整合性に留意しつつ、審査を行った。担当委員より現地審査の報告を受け、質疑、意見交換を進めた。4作品を選出するため、各部会委員が4票を有して投票を行った。5作品まで絞り込んだ後、票が割れた。議論を尽くした上で、Sランク該当作品はなく、Aランク2作品、Bランク2作品を本部へ推薦することに決定した。

選評の執筆は、1作品に対して1委員とし、8月下旬に本部へ資料を送付した。9月に行われた本審査の結果、北海道支部の推薦4作品全てが掲載と決定した。その後、文章執筆を担当した各委員は本部と直接、校正を行い、12月にすべての作業が終了した。

昨年度の活動計画を振り返るに、現地審査を多くの委員の参加によって行うことができたこと、北海道独自の環境における多様な試みを切り取ることができたこと、を振り返ると、目標は達成できたと考える。

審査員:主査:植田 暁君

委員:小澤 丈夫君,加藤 誠君,高松 康二君,平尾 稔幸君,本井 和彦君,
山脇 克彦君

(2) 作品選集支部選考の結果

支部応募作品数 9点

支部選考通過作品数 4点(本部採用4点)

作品選集掲載作品

- ・岩見沢複合駅舎
西村 浩君:㈱ワークヴィジョンズ
- ・空方の家
堀尾 浩君:堀尾浩建築設計事務所
- ・岩見沢の家
長坂 大君:京都工芸繊維大学
- ・北海道大学工学部建築・都市スタジオ棟
小林 英嗣君:北海道大学
川東 隆君:㈱北海道日建設計

9.3 建築文化週間

みんなで始める地震防災対策

主催:日本建築学会北海道支部

共催:七飯町、北海道立総合研究機構北方建築総合研究所

後援:北海道

日時:10月2日(土)9:00~13:00

場所:七飯町大中山コモン(農村環境改善センター)

プログラム：

- 1.地震と建物の耐震性の話
- 2.室内安全対策の話
- 3.住宅の耐震診断と室内診断の体験
- 4.避難食づくり
- 5.非常持出し品

講 師：北大，釧路高専，秋田県立大，北総研

参加対象：町民（親子），市町村職員，建築技術者，学会員

参加者：66名

テーマ：第35回北海道建築賞（2010年度）表彰式・記念講演会

主 催：日本建築学会北海道支部

日 時：11月5日（金）18:00～20:30

講 師：山内 圭吉君（第35回北海道建築奨励賞）「白のコラージュ」の設計
久野 浩志君（第35回北海道建築奨励賞）「熊谷邸」の設計

場 所：北海道大学遠友学舎（札幌市北区北18条西7丁目）

参加対象：一般市民、建築関係者、学生

参加者：約70名

テーマ：歴史的建造物の見学「建築散歩～厚岸編」

主 催：日本建築学会北海道支部

共 催：厚岸町教育委員会、北海道建築士会釧路支部

日 時：10月9日（土）9:00～17:00

場 所：厚岸町

主な見学先：北海道大学厚岸臨海実験所，国泰寺，正行寺，太田屯田兵屋など

講師：本学会北海道支部歴史意匠専門委員会委員，厚岸町教育委員会学芸員

参加対象：会員，一般市町村，行政職員

参加者：48名

10．建築関連団体との活動

10.1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数（AIJ）：8名，開催数：1回）

本委員会では、AIJ, JIA 両団体の活動の活性化を目的として、合同の企画等に関わる事項について協議した。協議内容は、AIJ-JIA ジョイントセミナーの企画、両団体の活動内容、両団体のイベント紹介と参加要請についてである。AIJ-JIA ジョイントセミナーは、第17回として2010年7月30日に「inexplicable=説明できないこと」講師：山田良君（札幌市立大学）第18回として2011年2月16日に「コンクリートにおける最近の諸問題」講師：星野政幸君（北海道工業大学）を開催した。

10.2 北海道建築設計会議（幹事会開催数：9回）

本会議は、日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本建築積算協会北海道支部、建築設備技術者協会北海道支部及び北海道建築技術協会の10団体により構成されている。本会からは、深瀬孝之と本井和彦の2名を参加させた。幹事会においては、各団体の法人化等について情報交換や意見交換を行った。

11 . 共催・後援

| 期 日 | 名 称 | 会 場 | 主 催 |
|---------------------|---------------------------------------|-------------|----------------------|
| 2010.8.18 (応募締切) | 第 35 回北の住まい住宅設計コンペ | | (社)北海道建築設計事務所協会 |
| 2010.8.18 | 「混和材料を使用したコンクリートの物性変化と性能評価」に関する報告会 | 北海道大学学術交流会館 | (社)土木学会 |
| 2010.9.13 他 | 「新・旭川駅舎プレオープン記念講演会・建築模型展」 | | 旭川まちなみデザイン推進員会 |
| 2010.10.6 | 「コンクリートの日 in Hokkaido 出前講座 大学から実務者へ～」 | 旭川ターミナルホテル | (社)日本コンクリート工学協会北海道支部 |
| 2010.10.6 | 「外壁の改修工事の計画および概算見積の仕方」 | 札幌市教育文化会館 | (社)日本積算協会北海道支部 |
| 2010.10.23 他 | 2010 年度 J S C A 実務者研修「基礎編」 | 北海道建設会館 | (社)日本構造技術者協会北海道支部 |
| 2010.12.21 | 「地区講演会(札幌)女性の視点からのトイレ」 | 札幌市男女参画センター | (社)空気調和・衛生工学会 |
| 2011.2.15 | 「第 21 回旭川建築作品発表会」 | 蔵囲蔵りハーサルホール | 旭川まちなみデザイン推進員会 |
| 2011.3.10 | 「すべての建築士のための特別総合研修」 | 北海道水産ビル | (社)北海道建築士会 |
| 2011.3.22 | 「混和材料の最新技術に関する調査研究委員会活動報告会」 | 北海学園大学 | (社)日本コンクリート工学協会北海道支部 |
| 2011.3.28 | 「凍害と耐久設計研究委員会活動報告会」 | 北海道大学学術交流会館 | (社)日本コンクリート工学協会北海道支部 |

2010 年度 貸借対照表

(単位:円)

| 科目名称 | | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|-------------------|-------------------|-------------------|---------------|---------|
| 資産の部 | 1 流動資産 | | | |
| | 現金預金 | 2,351,851 | 1,786,879 | 564,972 |
| | 未収金 | 0 | 0 | 0 |
| | 前払金 | 175,999 | 176,319 | 320 |
| | 仮払金 | 8,680 | 6,979 | 1,701 |
| | 流動資産合計 | 2,536,530 | 1,970,177 | 566,353 |
| | 2 固定資産 | | | |
| | (1) 基本財産 | 0 | 0 | 0 |
| | 基本財産合計 | 0 | 0 | 0 |
| | (2) 特定資産 | | | |
| | 学術振興基金引当資産 | 3,170,000 | 3,460,000 | 290,000 |
| | 災害調査研究基金引当資産 | 2,200,000 | 2,200,000 | 0 |
| | 支部基金引当資産 | 2,810,000 | 3,110,000 | 300,000 |
| | 退職給付引当資産 | 600,000 | 540,000 | 60,000 |
| | 特定資産合計 | 8,780,000 | 9,310,000 | 530,000 |
| | (3) その他の固定資産 | | | |
| 敷金 | 561,550 | 561,550 | 0 | |
| その他の固定資産合計 | 561,550 | 561,550 | 0 | |
| 固定資産合計 | 9,341,550 | 9,871,550 | 530,000 | |
| 資産の部合計 | 11,878,080 | 11,841,727 | 36,353 | |
| 負債の部 | 1 流動負債 | | | |
| | 未払金 | 0 | 0 | 0 |
| | 前受金 | 30,000 | 18,000 | 12,000 |
| | 預り金 | 10,833 | 23,537 | 12,704 |
| | 仮受金 | 561,550 | 561,550 | 0 |
| | 賞与引当金 | 0 | 0 | 0 |
| | 流動負債合計 | 602,383 | 603,087 | 704 |
| | 2 固定負債 | | | |
| | 退職給付引当金 | 600,000 | 540,000 | 60,000 |
| | 固定負債合計 | 600,000 | 540,000 | 60,000 |
| 負債の部合計 | 1,202,383 | 1,143,087 | 59,296 | |
| 正味財産の部 | 1 指定正味財産 | | | |
| | 指定正味財産合計 | 0 | 0 | 0 |
| | (うち基本財産への充当額) | (0) | (0) | (0) |
| | (うち特定資産への充当額) | (0) | (0) | (0) |
| | 2 一般正味財産 | 10,675,697 | 10,698,640 | 22,943 |
| | (うち基本財産への充当額) | (0) | (0) | (0) |
| (うち特定資産への充当額) | (8,180,000) | (8,770,000) | (590,000) | |
| 正味財産合計 | 10,675,697 | 10,698,640 | 22,943 | |
| 負債及び正味財産合計 | 11,878,080 | 11,841,727 | 36,353 | |

2010年度 正味財産増減計算書

北海道支部

(単位:円)

| 科目名称 | 当年度 | 前年度 | 増減 | 科目名称 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|-----------------|---------------|---------------|-------------|-----------|---------------|---------------|---------------|
| 一般正味財産増減の部 | | | | | | | |
| 1 経常増減の部 | | | | | | | |
| [1] 経常収益 | | | | [2] 経常費用 | | | |
| (1) 特定資産運用益 | (32,364) | (40,457) | (8,093) | (1) 事業費 | (5,213,561) | (4,095,133) | (1,118,428) |
| 特定資産受取利息 | 32,364 | 40,457 | 8,093 | 研究会事業費 | (2,753,246) | (2,108,653) | (644,593) |
| (2) 事業収益 | (2,995,595) | (2,620,453) | (375,142) | 研究会事業費 | 2,753,246 | 2,108,653 | 644,593 |
| 研究会事業収益 | (2,820,595) | (2,225,453) | (595,142) | 講演会・展示会費 | (351,203) | (482,261) | (131,058) |
| 研究会事業収益 | 2,820,595 | 2,225,453 | 595,142 | 講演会事業費 | 320,300 | 459,592 | 139,292 |
| 文化事業収益 | 0 | 190,000 | 190,000 | 展示会事業費 | 30,903 | 22,669 | 8,234 |
| 受託事業収益 | 0 | 0 | 0 | 調査研究事業費 | 1,402,523 | 911,995 | 490,528 |
| その他の事業収益 | 175,000 | 205,000 | 30,000 | 表彰・顕彰事業費 | (706,589) | (592,224) | (114,365) |
| (3) 受取寄付金 | 0 | 0 | 0 | 表彰関係費 | 692,495 | 576,794 | 115,701 |
| 受取基金寄付金 | 0 | 0 | 0 | 設計競技費 | 14,094 | 15,430 | 1,336 |
| (4) 雑収益 | (332,496) | (365,353) | (32,857) | 委託事業費 | 0 | 0 | 0 |
| 雑収益 | (332,496) | (365,353) | (32,857) | (2) 管理費 | (5,592,837) | (5,735,928) | (143,091) |
| 受取利息 | 755 | 1,132 | 377 | 会議費 | (255,483) | (209,070) | (46,413) |
| その他の雑収益 | 331,741 | 364,221 | 32,480 | 総会費 | 201,853 | 190,790 | 11,063 |
| (5) 他会計からの繰入額 | (7,423,000) | (6,984,000) | (439,000) | 役員会費 | 36,280 | 18,280 | 18,000 |
| 基本部門からの繰入額 | (5,565,000) | (5,126,000) | (439,000) | 運営費 | 17,350 | 0 | 17,350 |
| 支部費 | 1,504,000 | 1,522,000 | 18,000 | 給与手当 | 1,807,964 | 1,817,828 | 9,864 |
| 経営助成費 | 2,010,000 | 2,010,000 | 0 | 福利厚生費 | 280,632 | 284,833 | 4,201 |
| 事業促進費 | 1,015,000 | 550,000 | 465,000 | 退職給付費用 | 60,000 | 60,000 | 0 |
| 支部研究補助費 | 200,000 | 200,000 | 0 | 通信費 | 140,745 | 146,628 | 5,883 |
| 教育文化事業交付金 | 536,000 | 544,000 | 8,000 | 印刷費 | 70,585 | 102,412 | 31,827 |
| 大会交付金収入 | 0 | 0 | 0 | 消耗品費 | 25,745 | 89,053 | 63,308 |
| 支部事務費 | 300,000 | 300,000 | 0 | 電算費 | 0 | 0 | 0 |
| 会館部門からの繰入額 | (1,858,000) | (1,858,000) | (0) | 雑費 | 469,192 | 541,393 | 72,201 |
| 支部事務所費 | 1,858,000 | 1,858,000 | 0 | 事務所費 | 2,482,491 | 2,484,711 | 2,220 |
| 経常収益計 | 10,783,455 | 10,010,263 | 773,192 | 経常費用計 | 10,806,398 | 9,831,061 | 975,337 |
| 当期経常増減額 | 22,943 | 179,202 | 202,145 | | | | |
| 2 経常外増減の部 | | | | | | | |
| [1] 経常外収益 | | | | [2] 経常外費用 | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 | 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 当期一般正味財産増減額 | 22,943 | 179,202 | 202,145 | | | | |
| 一般正味財産期首残高 | 10,698,640 | 10,519,438 | 179,202 | | | | |
| 一般正味財産期末残高 | 10,675,697 | 10,698,640 | 22,943 | | | | |
| 指定正味財産増減の部 | | | | | | | |
| (1) 一般正味財産への振替額 | (0) | (0) | (0) | | | | |
| 一般正味財産への振替額 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 指定正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 指定正味財産期末残高 | 0 | 0 | 0 | | | | |
| 正味財産期末残高 | 10,675,697 | 10,698,640 | 22,943 | | | | |

2010 年度 収支計算書

北海道支部

(単位:円)

| 科目名称 | 予算額 | 決算額 | 差異 | 科目名称 | 予算額 | 決算額 | 差異 |
|-----------------|-------------------|-------------------|------------------|----------------|-------------------|-------------------|----------------|
| 事業活動収支の部 | | | | 事業活動収支の部 | | | |
| 1 事業活動収入 | | | | 2 事業活動支出 | | | |
| (1) 特定資産運用収入 | (9,000) | (32,364) | (23,364) | (1) 事業費支出 | (4,915,000) | (5,213,561) | (298,561) |
| 特定資産利息収入 | 9,000 | 32,364 | 23,364 | 研究集会事業費支出 | (2,150,000) | (2,753,246) | (603,246) |
| (2) 事業収入 | (2,405,000) | (2,995,595) | (590,595) | 研究集会事業費支出 | 2,150,000 | 2,753,246 | 603,246 |
| 研究集会事業収入 | (2,200,000) | (2,820,595) | (620,595) | 文化事業・展示会費支出 | (550,000) | (351,203) | (198,797) |
| 研究集会事業収入 | 2,200,000 | 2,820,595 | 620,595 | 文化事業費支出 | 520,000 | 320,300 | 199,700 |
| 文化事業収入 | 0 | 0 | 0 | 展示会事業費支出 | 30,000 | 30,903 | 903 |
| 受託事業収入 | 0 | 0 | 0 | 調査研究事業費支出 | 1,455,000 | 1,402,523 | 52,477 |
| その他の事業収入 | 205,000 | 175,000 | 30,000 | 表彰・顕彰事業費支出 | (760,000) | (706,589) | (53,411) |
| (3) 寄付金収入 | (0) | (0) | (0) | 表彰関係費支出 | 720,000 | 692,495 | 27,505 |
| 基金寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | 設計競技費支出 | 40,000 | 14,094 | 25,906 |
| (4) 雑収入 | (254,000) | (332,496) | (78,496) | 委託事業費支出 | 0 | 0 | 0 |
| 雑収入 | (254,000) | (332,496) | (78,496) | (2) 管理費支出 | (5,767,000) | (5,532,837) | (234,163) |
| 利息収入 | 4,000 | 755 | 3,245 | 会議費支出 | (270,000) | (255,483) | (14,517) |
| その他の雑収入 | 250,000 | 331,741 | 81,741 | 総会費支出 | 200,000 | 201,853 | 1,853 |
| (5) 他会計からの繰入金収入 | (7,337,000) | (7,423,000) | (86,000) | 役員会費支出 | 60,000 | 36,280 | 23,720 |
| 基本部門からの繰入金収入 | (5,479,000) | (5,565,000) | (86,000) | 運営費支出 | 10,000 | 17,350 | 7,350 |
| 支部費収入 | 1,414,000 | 1,504,000 | 90,000 | 給与手当支出 | 1,750,000 | 1,807,964 | 57,964 |
| 経営助成費収入 | 2,010,000 | 2,010,000 | 0 | 福利厚生費支出 | 300,000 | 280,632 | 19,368 |
| 事業促進費収入 | 1,015,000 | 1,015,000 | 0 | 退職給付支出 | 0 | 0 | 0 |
| 支部研究補助費収入 | 200,000 | 200,000 | 0 | 通信費支出 | 177,000 | 140,745 | 36,255 |
| 教育文化事業交付金収入 | 540,000 | 536,000 | 4,000 | 印刷費支出 | 115,000 | 70,585 | 44,415 |
| 支部事務費収入 | 300,000 | 300,000 | 0 | 消耗品費支出 | 57,000 | 25,745 | 31,255 |
| 会館部門からの繰入金収入 | (1,858,000) | (1,858,000) | (0) | 電算費支出 | 0 | 0 | 0 |
| 支部事務所費収入 | 1,858,000 | 1,858,000 | 0 | 雑費支出 | 445,000 | 469,192 | 24,192 |
| | | | | 事務所費支出 | 2,653,000 | 2,482,491 | 170,509 |
| 事業活動収入計 | 10,005,000 | 10,783,455 | 778,455 | 事業活動支出計 | 10,682,000 | 10,746,398 | 64,398 |
| 投資活動収支の部 | | | | 投資活動収支の部 | | | |
| 1 投資活動収入 | | | | 2 投資活動支出 | | | |
| (1) 特定資産取崩収入 | (590,000) | (590,000) | (0) | (1) 特定資産取得支出 | (60,000) | (60,000) | (0) |
| 特定資産取崩収入 | (590,000) | (590,000) | (0) | 特定資産取得支出 | (60,000) | (60,000) | (0) |
| 学術振興基金引当資産取崩収入 | 290,000 | 290,000 | 0 | 学術振興基金引当資産取得支出 | 0 | 0 | 0 |
| 支部基金引当資産取崩収入 | 300,000 | 300,000 | 0 | 支部基金引当資産取崩支出 | 0 | 0 | 0 |
| 退職給付引当資産取得収入 | 0 | 0 | 0 | 退職給付引当資産取得支出 | 60,000 | 60,000 | 0 |
| 投資活動収入計 | 590,000 | 590,000 | 0 | 投資活動支出計 | 60,000 | 60,000 | 0 |
| 財務活動収支の部 | | | | 財務活動収支の部 | | | |
| 1 財務活動収入 | | | | 2 財務活動支出 | | | |
| 財務活動収入計 | 0 | 0 | 0 | 財務活動支出計 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 予備費支出 | 253,000 | 0 | 253,000 |
| 収入合計 ~ | 10,595,000 | 11,373,455 | 778,455 | 支出合計 ~ | 10,995,000 | 10,806,398 | 188,602 |
| 当期収支差額 | 400,000 | 567,057 | 967,057 | | | | |
| 前期繰越収支差額 | 1,000,000 | 1,367,090 | 367,090 | | | | |
| 次期繰越収支差額 | 600,000 | 1,934,147 | 1,334,147 | | | | |

監査報告

2010年度における社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2011年4月26日

支部監事 _____

支部監事 _____

2011 年度事業計画方針案

1. 活動方針

学会本部の一般社団法人移行に伴い、支部会計、支部規定などの大幅な改革が近々に予定されています。基本的には従来の各支部の活動実績を維持する形態で進行することが念頭におかれておりますが、支部長の選挙や支部のあり方などにも変化や影響が考えられます。2011 年度は、今後の支部の在り方と関連し、これまで以上に活発な支部活動を推進していくべきと考えます。さらに、その基本は会員増強にあります。魅力ある支部活動の広報活動や積極的な事業展開を通じて、若い世代や実務者の入会をすすめていきたいと考えます。

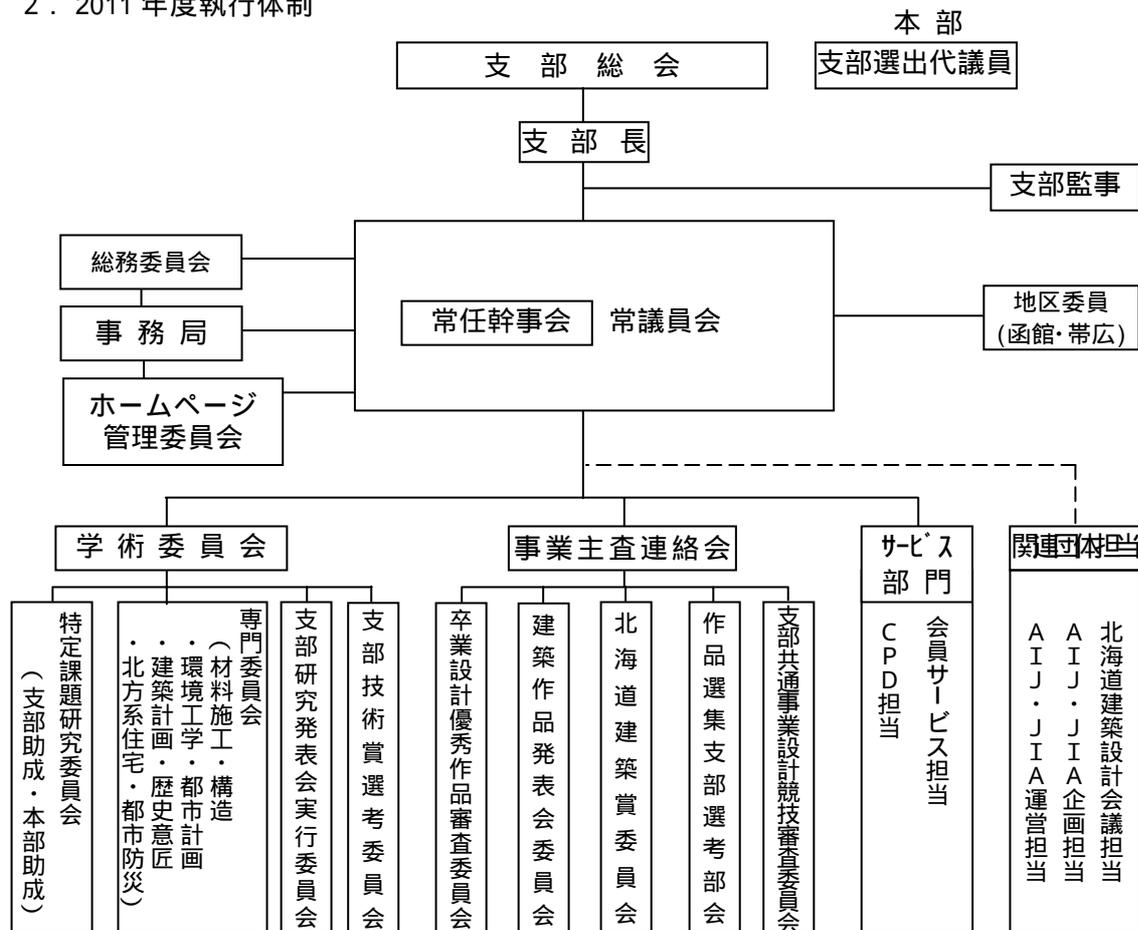
支部活動の中で、各専門委員会活動の活発化、特定課題研究の活性化をはかる必要がありますが、とくに専門委員会活動の点検・評価のあり方なども方策を検討したいと考えます。また、北海道支部技術賞は前年度の応募がなかった点を反省しつつ、賞のあり方、応募上の規定などを検討するためにタスクフォースをたちあげます。

本部では「建築デザイン発表会」開催により建築デザイン分野に発表の機会を提供し発表数の増加に寄与しているといわれていますが、本支部では同様の活動をすでに 30 年前から実施しており、これまでの歴史的背景を維持しつつ更なる展開を検討したいと考えます。

以上をふまえて、今年度は次の 4 点を中心に活動いたします。

- 支部活動の強化（会員の増強、財政の改善と強化）
- 支部体制の点検と評価（各種委員会活動の検証）
- 支部活動の活性化（支部発表会、建築作品発表会、各賞および支部技術賞の検討、他団体との連携）
- 東日本大震災復興支援活動

2. 2011 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2010.6.1~2012.5.31)

角 幸博君 北海道大学教授

新任常議員(2011.6.1~2013.5.31)

大條 雅昭君 北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部
建設行政室建設指導課主幹
大谷 正則君 伊藤組土建(株)建築部部長
後藤 康明君 北海道大学教授
斉藤 雅也君 札幌市立大学准教授
田村 隆君 清水建設(株)北海道支店設計部長
前田 憲太郎君 北海道工業大学准教授
渡邊 和之君 (地独)北海道立総合研究機構建築研究本部
北方建築総合研究所主査

(印 常任幹事)

支部長及び新任常議員は、支部役員選挙開票(2011年4月13日)により決定した。
支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(印 委員長)

菊地 優君, 稲川 努君, 岡本 浩一君, 本井 和彦君, 横山 和俊君

留任常議員(2010.6.1~2012.5.31)

稲川 努君 (株)石本建築事務所札幌支所主事
岡本 浩一君 北海学園大学准教授
関 弘義君 (株)北海道日建設計構造設計室室長
真境名達哉君 室蘭工業大学講師
本井 和彦君 (株)竹中工務店北海道支店設計部設計課長
山本 悦徳君 北海道札幌工業高等学校教諭
横山 和俊君 大成建設(株)札幌支店作業所長

(印 常任幹事)

新任代議員 (2011.4.1 ~ 2013.3.31)

岡田 成幸君 北海道大学教授
菅野 彰一君 (株)北海道日建設計代表取締役社長
星野 政幸君 北海道工業大学名誉教授

(2011年3月の本部選挙の結果、上記3名が選出された)

留任代議員 (2010.4.1~2012.3.31)

駒木 定正君 北海道職業能力開発大学校准教授
福島 明君 (地独)北海道立総合研究機構建築研究本部
企画調整部長
南出 孝一君 南出建築技術史研究所所長

新任支部監事 (2010.6.1~2013.5.31)

平尾 稔幸君 平尾建築事務所代表
(2011年4月の支部常議員会で選出された)

留任支部監事 (2010.6.1~2012.5.31)

串山 繁君 北海学園大学教授

地区委員 (2011.6.1 ~ 2012.5.31)

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰
函館地区委員 山本 真也君 函館市交通局長

3. 支部運営の諸会合の開催

総会
期日 2011年5月13日(金)
会場 北海道第二水産ビル

常議員会 (複数回)

常任幹事会 (複数回)

選挙管理委員会 (支部役員選挙時に開催する)

4. 学術系委員会

4.1 学術委員会 (主査：緑川 光正君，委員数：14名，委員会開催予定数：4回)

本委員会は、本部学術推進委員会の情報を各専門委員会および研究委員会に報告するとともに、各専門委員会・研究委員会から企画および活動の報告を受け、各委員会の活動の横断的な連携をはかる。また、支部長諮問事項についての検討、支部研究発表会実行委員会の企画の審議と承認、特色ある支部活動企画の申請、特定課題研究(本部・支部助成)の推薦、建築文化週間事業および北海道支部技術賞の募集と選考を行う。

第1回：本部学術推進委員会報告。支部研究発表会の予定。専門・研究委員会報告。特定課題研究・建築文化週間企画の募集。

第2回：支部研究発表会の募集要項。専門・研究委員会活動報告。特定課題研究・建築文化週間企画の承認。支部技術賞の募集

第3回：本部学術推進委員会報告。支部研究発表会の企画，専門・研究委員会活動報告。支部技術賞の審査。

第4回：支部研究発表会特別企画の決定。専門・研究委員会報告。特定課題研究・建築文化週間の結果報告。

4.2 専門委員会

材料施工専門委員会 (主査：伊東 敏幸君，委員数：22名，委員会開催予定数：6回)

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最新の施行現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。

具体的な活動予定は以下のとおりである。

- ・ 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議
- ・ 勉強会(話題提供)
- ・ 見学会の開催
- ・ 道内巡回講演会

構造専門委員会(主査：田沼 吉伸君，委員数：25名，委員会開催予定数：2回)

これまでに引き続き、委員会を通して道内における構造関係の研究者・技術者との情報交換を行うと共に、各種行事を企画して地域の会員・市民への啓蒙活動を行う。主な活動予定は次のとおりである。

- 1) 委員会の開催：2回行う(6月，12月)。必要に応じて通信会議を開く。
- 2) 講演会・講習会：JSCA等の建築関連諸団体と協力して必要に応じて計画する。
- 3) 見学会：道内の建築物(施工中も含む)等の見学会を行う。
- 4) 工業高校巡回講演会の講師推薦

- 講師：長谷川圭一委員 演題：「力の流れを設計する」
5) 勉強会：委員会開催時に、幅広い分野を対象に適宜勉強会を行う。

環境工学専門委員会（主査：斉藤 雅也君，委員数：26名，委員会開催予定数：4回）

本委員会は以下の活動を計画している。

- 1) 第6回環境工学系・卒業論文発表会 EGGs11を開催する。
- 2) 環境工学系若手研究者の研究発表の機会を設け、最新の研究動向の把握とともに、若手研究者の研究活性化を図る。
- 3) (社)空気調和・衛生工学会および(社)北海道建築技術協会、日本マンション学会などと連携し、環境関連の講演・シンポジウムへの後援・協賛等を予定している。

建築計画専門委員会（主査：森 傑君，委員数：14名，委員会開催予定数：複数回）

本年度は、これまでの活動実績を踏まえつつ、より精力的な学術活動および社会貢献活動を展開すべく、若手を中心とした委員構成へと組織を刷新し、専門委員会の基本的意義である北海道の建築計画（学）分野にかかわる学会員の相互交流の場として、本委員会の再活性化を目指す。具体的には、(1)委員各々の取り組みを勉強会形式により相互に紹介、建築計画（学）に関わる様々な課題や問題についての情報を共有する、(2)勉強会を発展させるようなかたちで、特定のテーマに絞ったミニシンポジウムを開催し、課題認識を深める、(3)今日の北海道において取り組むべき、建築計画（学）に関わるテーマを具体的かつ体系的に整理し、科学研究費補助金等への申請も視野に入れた、次年度以降の共同研究課題について検討する、(4)質の高い委員会活動を持続させるための組織のあり方（主査の任期、委員の公募など）について検討する、に取り組む。

都市計画専門委員会（主査：坂井 文君，委員数：14名，委員会開催予定数：5回）

2011年度の委員会の活動は、人材育成と情報発信に関わる活動を中心に計画されている。人材育成については、都市計画を遂行する人材の育成に向けて、現場と技術と理論を並行して理解するための勉強会などの開催を計画している。具体的には、北海道の地方都市の地域主権によるまちづくりの取り組みについて議論する勉強会を2010年度に引き続き行い、また北海道の観光振興のための景観形成に向けた取り組みについて議論する場を企画している。また情報発信に関しては、市民のまちづくりに対する意識の啓蒙と知見を広げるために、シンポジウムなどの開催を計画している。具体的には、札幌駅前地下通路の開発経緯についてシンポジウムを、支部大会の日程に合わせて7月に開催することを企画している。

歴史意匠専門委員会（主査：羽深 久夫君，委員数：17名，委員会開催予定数：5回）

例年のとおり、道内各地域の歴史的建造物の現状を把握することに努め、保存・活用等に関し委員相互の情報交換を行い、必要に応じて学会として社会や住民に貢献できる体制を準備する。また、2010年度「特色ある支部活動：北海道における漁業関連建築の歴史的研究」の成果を北海道支部研究発表会にて報告する。さらに、一般市民への啓発・普及活動として建築文化週間中の10月15日に建築見学会「建築散歩～小樽・積丹編」を実施する。なお、委員会内部の活性化も考慮した研究交流や情報交換なども継続して実施する予定である。

北方系住宅専門委員会（主査：鈴木 大隆君，委員数：16名，委員会開催予定数：4回）

本委員会では次の活動を予定している。

- 1) 新たな地域住宅像形成に向けた取り組みについて検討を進めるため年4回の委員会を開催する。
- 2) 新たな地域住宅像の検討に向けて住宅の見学会・意見交換会を開催する。
- 3) 支部特定課題研究「三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能住居について」の研究の実施をサポートする。

都市防災専門委員会（主査：草苅 敏夫君，委員数：19名，委員会開催予定数2回，通信委員会予定数：複数回）

委員相互の連携，防災関係機関との連携，他学協会との連携，地域との連携を強化するとともに，次の世代を担う若い人を育てていくための「防災教育の充実」を検討していくことも視野に

入れながら、次の3点を重点に活動を行う。

1) 建築文化週間事業「地震防災体験学習」の企画・運営。

建築文化週間事業として実施しているが、地域の防災関係機関や地域住民との連携を深める意味で、重要な事業であると考え、2011年度は、十勝管内での実施を企画している。

2) 防災イベントおよび講演会への協力。

防災関連のイベントおよび講演会に関して、展示物や講師等の派遣について協力をを行う。

3) 災害時の北海道支部緊急連絡体制の整備と充実。

災害時の北海道支部緊急連絡体系の体制をさらに充実させていく。

4) 津波避難対策研究活動の活性化。

東日本大震災においては津波によって甚大な被害が生じた。このような津波に対する防災研究の活性化と充実に取り組み、北海道における津波災害の防止や軽減に役立たせる。

4.3 特定課題研究委員会

(2011年度より)

三角屋根コンクリートブロック住宅の持続可能居住研究委員会(主査:鈴木 大隆君 委員数:8名、委員会開催予定数:複数回)

北海道の戸建住宅は昭和60年以降からは「高断熱・高気密化」そして現在は「北方型Eco住宅」と快適な温熱環境をみ出している。それ以前にもいわゆる「低断熱時代」には「三角屋根コンクリートブロック住宅(以下「三角住宅」とする)」が北海道の代表的な住宅として生み出されている。故・足達富士夫(北海道大学名誉教授)はそれを「北海道の民家」と言及するなど、「三角住宅」は明快な平面構成と構造、そしてスマートな外観など、北海道の住文化において優秀な住宅として多く供給されてきた。住宅改修が当然考慮される現在、ストックとしても多く現存し、かつ現代史的にも秀逸な「三角住宅」より、新たな住空間の可能性を示見いだす意義は大きい。それは一つの持続可能住居になると考えた。

以上に関し、研究ではまず「三角住宅」の開発経緯および供給全容を捉える。開発者が高齢となった現在、住宅史的資料を残す上でも急遽性も要する。次に現存する「三角住宅」を対象に、現在の居住環境の状況を明らかにする。最後に、良好な改修事例を参考に改修による住空間の新たな価値を見いだす。

4.4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2011年度より)

寒中コンクリート工事合理化研究委員会(主査:谷口 円君、委員数:10名、委員会開催予定数:複数回)

寒中コンクリート工事は、積算温度と気象統計値を用い、コンクリートの強度増進を予測し計画される。ここで用いられる積算温度式は、氷点下温度に適用出来ないため、氷点下温度となる計画が立案出来なかった。しかし、初期養生を経たコンクリートは氷点下でも、強度が増進する。これらの背景の中、2010年版の寒中コンクリート施工指針・同解説で氷点下の強度増進を表す積算温度が提案され、氷点下での計画管理が可能となった。

しかしながら、気象統計値に氷点下の積算温度を用いて計画することは合理的な手段とならない。外気温を用いる予測では、積算温度が稼がれず強度増進が得られないが、実際の構造体は養生上屋内にあり、外気温と同等の温度履歴とならないことは自明のことである。そのため、コンクリート温度での計画を可能とする手法が望まれる。

以上をふまえ、地域、養生条件等の異なる実施工現場において、外気、上屋内、構造体、管理供試体の実測データを収集・解析を行い、気象統計値と予想コンクリート温度を用いた合理的な寒中コンクリート工事施工計画を立案するための実用的な資料提供を目的とする。

5. 支部研究発表会

5.1 支部研究発表会実行委員会（主査：高井 伸雄君，実行委員会委員数：17名，委員会開催予定回数：4回）

支部研究発表会実行委員会は支部研究発表会の企画・運営を目的とし、下記を実施する。

- 1) 支部研究発表会の日程と会場の決定
- 2) 支部研究発表会の論文原稿種別、発表形式の決定
- 3) 論文執筆要領の作成と論文原稿の募集
- 4) 会長講演会および特別企画の実施
- 5) 論文原稿の受付および編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成
- 6) 支部研究報告集（冊子およびCD ROM）の作成および発行
- 7) 支部研究発表会の実施

5.2 支部研究発表会の実施

第84回北海道支部研究発表会

日時：2011年7月2日（土）9:30～17:00 一般研究発表会、会長講演会・特別企画

場所：札幌市立大学 芸術の森キャンパス

懇親会：講演会終了後に大学内で開催

原稿提出締切：2011年4月14日（木）17:00（電子投稿受付）

発表登録システム HP：http://olive-sg.eng.hokudai.ac.jp/aij/entry/thesis_entry.php

支部研究報告集（冊子およびCD ROM）No.84 を発行

6. 表彰

6.1 北海道建築賞

（1）賞の概要

建築作品を支える「先進性」、「規範性」、「洗練度」の3つの視点から現地視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰および受賞者による記念講演を行い、北海道における建築創作活動の一層の促進を図る。

（2）北海道建築賞委員会の実施

上記の方針に基づき、以下のスケジュールによって委員会を実施する。

- 1) 第36回北海道建築賞の応募期間：2011年4月15日（金）～5月16日（月）
- 2) 審査期間：5月上旬（応募状況確認および応募推薦作品の選定）～6月中旬（書類審査）～7・8月（現地審査）～9月上旬（最終選考）
- 3) 結果発表：9月下旬
- 4) 北海道建築賞表彰式および受賞記念講演会：10月28日（金）予定

6.2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

（1）賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

（2）卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2011年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2010年度と同様、2011年度卒業設計作品について優秀作品審査委員会を実施し、表彰の目的、審査の考え方を確認した上で「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の部門別に金、銀、銅の各賞を選考する。また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6.3 卒業優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6.4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

6.5 日本建築学会北海道支部技術賞

北海道支部技術賞は、地域性に係って、創造性豊かな建築・都市に関する新技術を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的とし、表彰を実施する。

7. 北海道建築作品発表会

7.1 北海道建築作品発表会委員会（主査：米田 浩志君，委員数：4名，実行委員数：10名，委員会開催数：5回（実行委員会3回を含む））

2011年度は、建築作品発表会が第31回を迎える。昨年に引き続き充実した発表の場にしたい。例年発表会の後半に企画しているフォーラムを改良しながら、さらに活発な議論が生じるよう内容を検討して行きたい。建築作品発表会の過去30年は北海道建築の質の向上に積極的に寄与してきた。その歴史的事実を再確認しながら、今後の発表会への橋渡しをすべく31年目の企画を検討していきたい。尚、例年通り建築作品発表会作品集を発行する予定である。

7.2 北海道建築作品発表会の実施予定

作品の応募時期：8月下旬～9月下旬
作品集原稿締め切り：10月中旬
作品発表会開催時期：12月初旬の中の1日間
作品発表会開催場所：道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8.1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査および事業主査連絡会担当常議員，予定開催数：複数回）

事業系5委員会について、事業の進捗状況ならびに事業を進める上での問題点等を適宜把握する。これを通じて、意思決定機関である常議員会へ改善や展開の提案等をおこなう。また、この役割を今後も果たすために必要な活動を推進する。さらに、事業系5委員会が連携しながら事業

総体の活性化を計る可能性についても検討を継続する。

8.2 総務委員会（委員長：菊地 優君，委員数：4名）

本委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により支部の財政状況がさらに悪化していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに、事務局業務の効率化、日本建築家協会北海道支部との合同企画についても検討を行う。

総務委員会(2011年度)(予定)

| | | | |
|-----|--------|------------|---------------|
| 委員長 | 菊地 優君 | 北海道大学 | (教育機関の常議員経験者) |
| 委員 | 那須 豊治君 | 岩田地崎建設 | (民間機関の常議員経験者) |
| " | 福島 明君 | 北海道立総合研究機構 | (行政機関の常議員経験者) |
| " | 稲川 努君 | 石本建築事務所 | (留任常議員) |
| " | 未 定 | | (新任常議員) |

8.3 ホームページ管理委員会（主査：斉藤 雅也君，委員数：3名）

当委員会は当支部ホームページの管理を活動の目的としている。3名の委員で構成され、委員会の定例開催は特に設定していないが、掲載内容等について適宜通信により協議することとしている。2011年度は、前年度に引き続き既掲載内容や行事案内等を迅速に更新・掲載し、時宜を得た会員への情報提供を行うとともに、会員外に対しても広く日本建築学会および当支部の活動を宣伝するため、各種委員会の活動状況、行事の案内および活動報告などを適切に掲載し、当ホームページの更なる充実を図る。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9.1 本部主催講習会

2011年度本部主催支部共通事業、委員会主催講習会を開催する。

9.2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9.3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9.4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10.1 2011年度支部共通事業設計競技の実施（主査：川人 洋志君，委員数：5名，委員会開催予定数：1回）

2011年度設計競技審査委員会の委員には、主査川人洋志、委員、赤坂真一郎、小西彦仁、那須聖、山之内裕一の5名で行う予定である。

2011年度の課題は「時を編む建築」と決定され、7月中に支部審査を1回行う予定である。なお、昨年以上の応募数確保のため、各大学関係者に参加の呼びかけを適切な時期に行いたいと考えている。

10.2 作品選集支部選考部会（主査：小澤 丈夫君，委員数：8名，委員会開催予定数：2回及び現地審査）

2010年度を含むこの数年間、北海道支部から推薦した作品の殆どが、作品選集に掲載された。北海道の建築作品が安定した質を有し、応募者が明快な論点を言語化している故に他ならないと考えられる。2010年度の特徴は、道外の設計者が参加した作品も多く選ばれた点である。そのアイデアは新鮮ですらあった。北国だからこそ可能となる新しい意匠と温熱環境の関係性に、多様な方向性があることを認識することができたといえよう。これらの成果を引き続き、全国に伝えていきたい。

そのため、2011年度には次の視点を意識して、活動に取り組みたい。

- ・ より多くの作品が応募されるような環境づくりを、引き続き支部委員会で検討する。
- ・ 2010年度に可能となった多人数での現地審査を継続し、闊達な議論の場を設ける。
- ・ 選評執筆に際し、個々の作品だけではなく、議論で俯瞰した内容を伝えよう、意識の共有化を計る。

2010年度支部推薦作品は、北海道で実践された建築が、ある新しい原型となりうる一般解を有し、全国へ還元される流れの分かりやすい例といえる。

2011年度の活動でも引き続き、次なる可能性の発見を見据えた選考を行いたい。

10.3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の3件を予定している。

1. 「みんなで始める地震防災対策」（都市防災専門委員会）
2. 「第36回北海道建築賞表彰式・記念講演会」（支部主催）
3. 歴史的建造物の見学「建築散歩～小樽・積丹編」（歴史意匠専門委員会）

11. 建築関連団体との活動

11.1 AIJ-JIA 合同委員会（委員数(AIJ)：常任7名，委員会開催予定数：1回）

日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、両団体の活動についての情報交換および合同企画について協議する。ジョイントセミナーについては継続して行うように計画を進める。

11.2 北海道建築設計会議

10団体により構成されている本会議は、建築確認制度や建築士制度など、主に建築業界に共有の課題について、引き続き情報交換や意見交換をおこなう予定である。

2011 年度収支予算案

北海道支部

(単位:円)

| 科目名称 | 予算額 | 前年度予算額 | 差異 | 科目名称 | 予算額 | 前年度予算額 | 差異 |
|-----------------|------------------|-------------------|------------------|----------------|-------------------|-------------------|----------------|
| 事業活動収支の部 | | | | 事業活動収支の部 | | | |
| 1 事業活動収入 | | | | 2 事業活動支出 | | | |
| (1) 特定資産運用収入 | (5,000) | (9,000) | (4,000) | (1) 事業費支出 | (4,125,000) | (4,915,000) | (790,000) |
| 特定資産利息収入 | 5,000 | 9,000 | 4,000 | 研究集会事業費支出 | (2,200,000) | (2,150,000) | (50,000) |
| (2) 事業収入 | (2,375,000) | (2,405,000) | (30,000) | 研究集会事業費支出 | 2,200,000 | 2,150,000 | 50,000 |
| 研究集会事業収入 | (2,200,000) | (2,200,000) | (0) | 文化事業・展示会費支出 | (390,000) | (550,000) | (160,000) |
| 研究集会事業収入 | 2,200,000 | 2,200,000 | 0 | 文化事業費支出 | 360,000 | 520,000 | 160,000 |
| 文化事業収入 | 0 | 0 | 0 | 展示会事業費支出 | 30,000 | 30,000 | 0 |
| 受託事業収入 | 0 | 0 | 0 | 調査研究事業費支出 | 740,000 | 1,455,000 | 715,000 |
| その他の事業収入 | 175,000 | 205,000 | 30,000 | 表彰・顕彰事業費支出 | (795,000) | (760,000) | (35,000) |
| (3) 寄付金収入 | (0) | (0) | (0) | 表彰関係費支出 | 755,000 | 720,000 | 35,000 |
| 基金寄付金収入 | 0 | 0 | 0 | 設計競技費支出 | 40,000 | 40,000 | 0 |
| (4) 雑収入 | (286,000) | (254,000) | (32,000) | 委託事業費支出 | 0 | 0 | 0 |
| 雑収入 | (286,000) | (254,000) | (32,000) | (2) 管理費支出 | (5,865,000) | (5,767,000) | (98,000) |
| 利息収入 | 1,000 | 4,000 | 3,000 | 会議費支出 | (270,000) | (270,000) | (0) |
| その他の雑収入 | 285,000 | 250,000 | 35,000 | 總會費支出 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| (5) 他会計からの繰入金収入 | (6,513,000) | (7,337,000) | (824,000) | 役員会費支出 | 60,000 | 60,000 | 0 |
| 基本部門からの繰入金収入 | (4,655,000) | (5,479,000) | (824,000) | 運営費支出 | 10,000 | 10,000 | 0 |
| 支部費収入 | 1,395,000 | 1,414,000 | 19,000 | 給与手当支出 | 1,800,000 | 1,750,000 | 50,000 |
| 経営助成費収入 | 1,920,000 | 2,010,000 | 90,000 | 福利厚生費支出 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| 事業促進費収入 | 300,000 | 1,015,000 | 715,000 | 退職給付支出 | 0 | 0 | 0 |
| 支部研究補助費収入 | 200,000 | 200,000 | 0 | 通信費支出 | 172,000 | 177,000 | 5,000 |
| 教育文化事業交付金収入 | 540,000 | 540,000 | 0 | 印刷費支出 | 100,000 | 115,000 | 15,000 |
| 支部事務費収入 | 300,000 | 300,000 | 0 | 消耗品費支出 | 90,000 | 57,000 | 33,000 |
| 会館部門からの繰入金収入 | (1,858,000) | (1,858,000) | (0) | 電算費支出 | 0 | 0 | 0 |
| 支部事務所費収入 | 1,858,000 | 1,858,000 | 0 | 雑費支出 | 480,000 | 445,000 | 35,000 |
| | | | | 事務所費支出 | 2,653,000 | 2,653,000 | 0 |
| 事業活動収入計 | 9,179,000 | 10,005,000 | 826,000 | 事業活動支出計 | 9,990,000 | 10,682,000 | 692,000 |
| 投資活動収支の部 | | | | 投資活動収支の部 | | | |
| 1 投資活動収入 | | | | 2 投資活動支出 | | | |
| (1) 特定資産取崩収入 | (290,000) | (590,000) | (300,000) | (1) 特定資産取得支出 | (60,000) | (60,000) | (0) |
| 特定資産取崩収入 | (290,000) | (590,000) | (300,000) | 特定資産取得支出 | (60,000) | (60,000) | (0) |
| 学術振興基金引当資産取崩収入 | 290,000 | 290,000 | 0 | 学術振興基金引当資産取得支出 | 0 | 0 | 0 |
| 支部基金引当資産取崩収入 | 0 | 300,000 | 300,000 | 支部基金引当資産取崩支出 | 0 | 0 | 0 |
| 退職給付引当資産取得収入 | 0 | 0 | 0 | 退職給付引当資産取得支出 | 60,000 | 60,000 | 0 |
| 投資活動収入計 | 290,000 | 590,000 | 300,000 | 投資活動支出計 | 60,000 | 60,000 | 0 |
| 財務活動収支の部 | | | | 財務活動収支の部 | | | |
| 1 財務活動収入 | | | | 2 財務活動支出 | | | |
| 財務活動収入計 | 0 | 0 | 0 | 財務活動支出計 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | 予備費支出 | 19,000 | 253,000 | 234,000 |
| 収入合計 ~ | 9,469,000 | 10,595,000 | 1,126,000 | 支出合計 ~ | 10,069,000 | 10,995,000 | 926,000 |
| 当期収支差額 | 600,000 | 400,000 | 200,000 | | | | |
| 前期繰越収支差額 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | | | | |
| 次期繰越収支差額 | 400,000 | 600,000 | 200,000 | | | | |

基金・積立金内訳

| 2011年度末(決算) | | 2012年度末(予算) | |
|-------------|-----------|-------------|-----------|
| 支部基金 | 2,810,000 | 支部基金 | 2,810,000 |
| 災害調査研究基金 | 2,200,000 | 災害調査研究基金 | 2,200,000 |
| 学術振興基金 | 3,170,000 | 学術振興基金 | 2,880,000 |
| 職員退職積立金 | 600,000 | 職員退職積立金 | 660,000 |

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿
法人正会員

2011年3月末現在

| 会員番号 | 口数 | 会員社名・団体名 | 会員番号 | 口数 | 会員社名・団体名 |
|----------|----|---------------------|----------|----|--------------------|
| 00503-64 | 1 | 伊藤組土建(株) | 00547-58 | 1 | 戸田建設(株) |
| 00505-34 | 2 | 岩倉建設(株) | 00553-56 | 1 | (株)巴コ-ポレ-ション |
| 00505-50 | 2 | 岩田地崎建設(株) | 00557-04 | 1 | 日鐵セメント(株) |
| 00515-72 | 1 | (株)岡田設計 | 00614-45 | 1 | 日本デ-タサ-ビス(株) |
| 00567-92 | 2 | 北電興業(株) | 00555-50 | 1 | 西松建設(株) |
| 00517-00 | 5 | 鹿島建設(株) | 00560-51 | 1 | (株)日本設計札幌支社 |
| 00614-38 | 1 | (株)ホ-ム企画センター 総務部 | 00561-82 | 1 | 日本防水総業 |
| 00523-82 | 2 | (株)熊谷組 | 00573-66 | 1 | (株)三菱地所設計 |
| 00568-23 | 2 | (株)北海道日建設計 | 00625-81 | 1 | (株)アトリエ・アク |
| 00571-46 | 3 | 丸彦渡辺建設(株) | 00586-89 | 1 | 北農設計センター |
| 00540-41 | 5 | 大成建設(株) | 00597-74 | 1 | (株)総研設計 |
| 00575-10 | 1 | 宮坂建設工業(株) | 00616-32 | 1 | (株)北方住文化研究所 |
| 00544-49 | 2 | (株)竹中工務店 | 00568-07 | 1 | (株)ドーコン |
| 00674-76 | 1 | (株)間組 札幌支店建築部 | 00618-60 | 1 | 北海道建築設計監理 (株) |
| 00656-02 | 1 | 坂本建設(株) | 00568-15 | 2 | 北海道コンクリ-ト 工業 |
| 00659-11 | 1 | (株)都市設計研究所 | 00531-84 | 1 | 清水建設(株) |
| 00674-84 | 1 | 五洋建設(株) 札幌支店 | 00538-83 | 2 | (株)田中組 |
| 00549-52 | 1 | 東急建設(株) 札幌支店 | 00674-50 | 1 | (株)中原建築設計 事務所 |
| 00710-77 | 1 | (株)久米設計札幌支社 | 00684-14 | 1 | (株)三暁プレコン システム |
| 00684-22 | 1 | (株)北海道サンキット | 00685-29 | 1 | (株)北海道不二サッシ |
| 00724-63 | 1 | (有)エヌディースタジオ | 00704-45 | 1 | (株)アトリエ・ブंक |
| 00725-28 | 1 | (株)コバエンジニア | 00704-09 | 2 | (財)北海道建築指導 センター |
| 00725-36 | 1 | (有)北欧住宅研究所 | 00708-51 | 2 | 北海道旅客鉄道(株) |
| | | | 00721-70 | 1 | (株)土屋ホーム |

賛助会員

| 会員番号 | 口数 | 会員社名・団体名 |
|----------|----|-----------------------------------|
| 00814-70 | 3 | 北海道電力(株) |
| 00810-06 | 1 | 道都大学附属図書情報館 |
| 00813-49 | 1 | (株)NTT ファシリティ -ズ北海道支店 営業推進部 |
| 00815-01 | 1 | 北海学園大学附属 図書館 |
| 00815-19 | 1 | 札幌建築デザイン専門学校 |
| 00847-03 | 1 | (株)総合資格 |



社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1
北海道建設会館 6階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>